

# ニチメン大阪社友会

## 会 報

No.20  
2017  
May



# ニチメン大阪社友会会報 もくじ

## －第 20 号－

ページ

1)	平成 29 年度総会・懇親会開催のお知らせ	.....	1
2)	平成 29 年 新年互礼会	.....	2
1.	新年互礼会のご報告	.....	2
2.	会長挨拶	林 靖.....	3
3.	来賓挨拶	茂木 良夫.....	5
4.	乾杯の音頭	石原 啓資.....	7
5.	長寿お祝いに対する返礼のご挨拶	小野 恤司.....	7
3)	OB 会	.....	
	第 12 回秋の親睦ウォーキング	.....	9
	第 12 回春の親睦ウォーキング	.....	10
	第 19 回ニチメン OB ゴルフ会	.....	11
	第 5 回日商岩井 OB との囲碁交流会	.....	12
4)	会員寄稿	.....	
1.	大阪物語③天神橋商店街を支えたもの	丸尾 嘉重.....	13
2.	スコッチウイスキーは地酒（イギリス人雑感－4）	柴田 隆.....	15
3.	仲原さんからの手紙	岡崎 謙二.....	16
4.	HAPPY BIRTHDAY WEEK	佐武 博司.....	17
5.	小浜小学校の課外授業に参加	佐武 博司.....	19
6.	銘酒「正宗」の記	林 喜久雄.....	21
7.	コーヒーブレイク“18 歳と 81 歳”	白川 清朗.....	23
8.	熊野古道	金谷 安勝.....	24
9.	センチメンタル・ジャーニー（ビルマ編）	龍田 誠一.....	32
10.	新しい日本国歌の提唱	山邑 陽一.....	35
11.	小論二題	山邑 陽一.....	36
12.	双日谷口副社長の転勤歓送会	山邑 陽一.....	37
5)	社友会からのお知らせ	.....	38
6)	平成 29 年度会員登録のお願い	.....	41
7)	寄稿のお願い	.....	42
8.)	編集後記	.....	42

## 平成 29 年度ニチメン大阪社友会総会・懇親会開催のお知らせ

恒例の社友会総会・懇親会を下記の要領にて開催いたします。

皆様多数の参加をお待ちしております。

開催日：平成29年9月12日(火曜日)  
11時30分-14時(開場11時)

開催場所： 太閤園（太閤園株式会社）  
大阪市都島区網島町9-10  
電話 06-6356-1117  
J R 東西線 大阪城北詰駅 下車  
③出口 徒歩 5分

参加費 : 3,000 円

7月末日にご案内及び出欠返信ハガキを同封にてご案内致します。

ニチメン東京社友会の方も懇親会に参加することができます。歓迎いたします。



## 平成 29 年 新年互礼会のご報告

恒例の新年互礼会を去る 1 月 12 日（木）午前 11 時より太閤園にて開催しました。131 名の会員の参加を戴き、又、双日本社からも茂木良夫副社長はじめ 9 名ものご列席を得て大変な盛会となりました。

林 靖会長の年頭挨拶、茂木良夫双日副社長のご来賓挨拶に続き、今年度目出度く白寿、米寿を迎えた 16 名の方々に対するお祝い品贈呈を行い、その後、ニチメン東京社友会会长 石原啓資様のご挨拶、乾杯のご発声にて宴会に入りました。

宴会の中程には、全国でご活躍中の駒田早代様による津軽三味線と民謡をご披露を戴き華を添えて戴きました。

ご参加各位には充分楽しんで戴いた年頭の催しは凡そ午後 1 時 50 分に無事閉会となりました。

茲に、林 靖会長・茂木良夫双日副社長のご挨拶全文と乾杯の音頭・長寿者代表の挨拶に若干のスナップ写真を添えさせて戴きます。



## 平成 29 年新年互礼会 会長挨拶

会長 林 靖



皆さん、新年あけましておめでとうございます。会長の林 靖でございます。新年を寿ぎ一言年頭のご挨拶を申し上げます。

本日は、平成 29 年ニチメン大阪社友会新年互礼会をご案内いたしましたところ、会員の皆様には大変お元気にて、ご参加くださいまして誠にありがとうございます。

又、双日ご本社からは、年頭の大変ご多忙の中、東京からわざわざ代表取締役副社長茂木良夫様、谷口真一副社長様、平川真淳執行役員様、他幹部の皆様方に、ご臨席をいただき厚く御礼を申し上げます。

更に、本日は、特別ゲストとして昨年ご就任されたニチメン東京社友会会長の石原啓資様をお招きしております。大阪社友会発足の際には私ども世話人と共に大いにご尽力をいただいたたご縁がございます。東西交流の良い機会ですので歓迎申し上げ度、後程ご紹介させていただきます。

さて、本年度も例年通り、この太閤園にて新年互礼会を開催することが出来ました。年月の経つのは誠に早いものであります。この場で私が平成 25 年の新年互礼会においてご挨拶を申し上げましてから、早くも 5 回目のご挨拶となりました。感無量であります。

本日は 140 人のみなさんにお集まりいただきており、ご覧のとおり大盛況です。久しぶりにご参加いただいた方も多くおられ誠に嬉しく存じております。是非お正月のこの穏やかな雰囲

気の中で、大いにご歓談いただき、賑やかに、賀詞交換をお楽しみ頂きたいと存じます。

なお、此の後、皆様と共に新年恒例のご長寿のお祝いセレモニーを行います。本年は 16 名の方々をお祝いします。めでたく 99 歳の白寿を迎える加藤義民様と、88 歳の米寿をお迎えになります 15 名の皆様、併せて 16 名の方々に対し、お祝いの目録の贈呈申し上げます。受章されます方々に対し、心からお慶びを申し上げますとともに、これからもますますお元気にお過ごしくださいますようご祈念申し上げる次第であります。

さて、元旦以来お天気が続き皆様にはご家族お揃いで楽しくお正月をお過ごしになられたことと存じます。今年は縁起の良い酉年ということもあって、なんだか良い年になりそうだと思いながらお集まりになっておられるのではないでしょうか。

テレビも新聞も声をそろえて、年末年始円安株高をはやしております。日経新聞の年頭景気株式見通しも全員が大幅の右肩上がりとなっている様であります。ぜひそうあって欲しいと思いますが、しかしながら、昨年度は年間を通じて大変荒れた年でありました。

英国の EU 縛りに大騒ぎしたのはつい数か月前であります。それが英國民の総意かどうかはともかく、大方のメディアの予想を覆したこと

は事実であります。ついには 11 月 8 日、まさかまさかのトランプさんの勝利となりました。この時も此処で一波乱と思いきや、たった一日にしてまさかのトランプ大統領歓迎の大合唱となつたわけであります。

いよいよ来週 1 月 20 日にはトランプ大統領就任式です。今朝の記者会見にもありました。このところのメキシコをめぐる強硬姿勢には強く不透明性を感じます。いずれにせよ今年は各國がますます内向き志向になることは避けられないようであり、バランスオブパワーの中での緊迫した緊張関係が続くことは間違いないようであります。

偉大なる成果であるオバマ大統領の広島訪問に続く、安倍首相の真珠湾訪問による日米の平和への呼びかけを無にしないように願いたいものであります。

改めて、我が国のあるべき姿についても真剣に思いを致さねばならないと思っております。

さて、このような厳しい環境の中ではあります。幸い双日グループの業績見通しは極めて好調と伺っており、株価も堅調な動きを示しています。誠に頼もしく喜ばしいことであります。衷心よりお慶び申し上げる次第です。

さて、昨年 9 月の総会にて詳しくお話ししましたように今期はニチメン大阪社友会 10 周年であります。社友会運営状況はお陰様で安定的に順調に進捗しております。18 人の世話人は一致協力し、ベストパフォーマンスを發揮しています。今後 5 年、10 年を見据えて引き続きより一層頑張ってまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

本日は、このあと新年互礼会恒例のアトラク

ションとして津軽三味線をご期待下さい。

又、新年の社友会イベント開催日程についてご案内します。

まず 1 つはニチメン社友会・新年囲碁初打ちの集いを 1 月 23 日（月）に開催。

2 つには、4 月 3 日に観桜ウォーキングとして、石清水八幡宮から淀城城跡をめぐる 8 km コース親睦会を行います。

3 つ目に、春の絵画展を例年通り開催します。

なお、会員の皆さんに改めてお願ひがあります。是非ニチメン大阪社友会のホームページをご覧ください。これら一連の社友会や双日情報を見ています。ニチメン大阪社友会ホームページは簡単に社名を入力するだけで検索できますので、是非ご覧いただきたいと存じます。

終わりになりますが、双日株式会社グループ並びに東西ニチメン社友会のますますの発展と、本日ご参加いただきました皆々様の御健勝とご多幸をご祈念申し上げ、簡単楚辞ですが、新年の会長ご挨拶とさせていただきます。



## 来賓挨拶

双日（株）代表取締役副社長執行役員 茂木 良夫



皆様、新年明けまして御目出とうございます。御紹介に預かりました、双日の茂木で御座います。新年のご挨拶の前に二つだけご報告を申し上げたいことがあります、この場をお借りしたいと思います。

一つは、私どもの東京本社、内幸町の飯野ビル21階は、カフェテラスと会議室の共通スペースになっていますが、ここに私どもの広報部が頑張り、所謂双日のルーツであるニチメン、日商岩井、更にそれらのルーツである、日本綿花、岩井産業、鈴木商店まで遡って歴史を辿り、その足跡を記した、記念碑、創業者の胸像、或いは創設趣意書コピーなどを恒久的に展示しました。昨年私もこれを見ましたが、非常に興味深く、胸像は有名な彫刻家の方にお願いして精巧に創られており、非常に素晴らしい展示がなされております。東京本社にお立ち寄りの際には、是非一度ご覧頂ければと思います。

それともう一つ御報告申し上げます。現在、私どもの大阪事務所は堺筋本町の久太郎ビルに入っておりますが、今年9月にJR大阪駅に直結している梅田ダイビルに引っ越しを行うという事です。梅田ダイビルの17階から23階までとなりますが、今の久太郎ビルに入っている双日グループのほとんどすべての会社がここに入る予定です。社友会の事務室もここに入る訳ですが、9月になりましたら、どうぞそちらへお運び頂けたらと思っています。

さて、新年のごあいさつで御座いますが、私

ども商社にとりまして、昨年度は驚天動地の出来事が二つ御座いました。商社にとって非常になじみの深い国である英國のユーロからの離脱、また米国のトランプ新大統領の誕生です。

私が非常に驚いたのは、高名な政治家、経済学者、或いは井戸端会議に至るまで、誰もがあまり想像していなかったことが二つも起こってしまったと言う事で御座います。一寸先がますます見えなくなっていると言うことを鑑み、此の先どういう風になっていくのかとちょっとした恐怖感をおおられたということです。私なりにこの二つの出来事が、一体どういうにことなのかと考えました。19世紀、20世紀をリードしてきたイギリスとアメリカ、この二つの巨大な国が「もうリーダーを務めるのは疲れた、自分たちの国をきちんとしていくことで精一杯、人のお節介などやりたくない」という事を言っている様に思えてなりません。随分前に核家族化という言葉が日本でも流行りましたが、国家自身がだんだん核家族化し、人のお節介をやく、リーダーシップを發揮するというようなことを嫌がる風潮になって来たのではないかと危惧する次第です。

人のお節介というのは、私ども商社にとっての得意技で御座います。お節介と言うのは、商社の業界用語で言えば、「仲介」と言う事にな

ろうかと思います。

モノを輸入したい国と輸出したい国とを結び付ける、モノを作つて売りたいところと、買いたいところを結び付ける、このお節介をやくのが私ども商社の役割で御座います。アメリカ、イギリス、こういうところが、そのお節介をやきたがらないのであれば、私ども商社が稀有壮大にして、ますます国と国、人と人とのお節介をやいて、自由貿易の一貫を担つて行きたいという風に思つております。

今後、益々この貿易商社の役割が大事にされて行く、或いは、必要になって行くという風に思つておりますので、この1年稀有壮大に自由貿易をリードして行きたいと思っております。

扱つて、社業の方ですが、先ほども林会長からも紹介がありましたように、この4月からの1期が、私どもの中期経営計画の最終年度で御座います。当初、中期経営計画の策定の時期に、最終のネット利益を600億円程度にもつていきたいと思っておりましたが、残念ながら資源価格の大幅な下落等で、前提条件が崩れたと言う事でこの最終年度の600億円はなかなかハーダルが高こう御座います。

しかしながら、今期400億円のネット利益は何とかしたいと考えております。後3ヶ月、私どもが諦めることなく、ネット利益400億円をクリアーする為に、戦いを続けて行きたいと思っております。幸いなことは、昨年、私どもの株価も直近の高値である300円を超えてまいりました。巷の経済紙では、双日の株式についての注目も集まって来ております。私どもは地道に経営を続けて、全てのステークホルダーにご満足を頂けるように、株価の上昇、安

定した配当、これを向う3年間の新しい中期経営計画でも掲げ頑張つて行こうと思いますので、皆様方のご支援を宜しくお願い申し上げたいと思います。

最後になりましたが、ニチメン大阪社友会、ニチメン東京社友会の益々のご発展と、本日ここにお集まりいただいている皆様のこの一年のご健康を祈念致しまして、私のご挨拶と替えさせていただきます。どうも有難うございました。



## 乾杯の音頭

ニチメン東京社友会 石 原 啓 資



只今ご紹介頂きました、ニチメン東京社友会長の石原で御座います。

新年、明けまして御目出とうございます。会も始まりましてもう40分も経っておりますので、簡単にご挨拶をさせて頂きます。

本日この場でニチメン大阪社友会の皆さん方とニチメン大阪社友会の新年互礼会を迎えることを大変うれしく思っております。どうも有難うございます。

私、ニチメン東京社友会の会長になりまして1年半経過致しました。東京の方は、残念ながら会員の数が急激に減って来ておるのが現状で御座います。何とかして、数を増やさなければいけないという風に思いながらいろいろ知恵を絞り、皆様方のご協力を頂いて、まあ、この1週間後に新年会を迎えますが、会員の数も何とか横這いで維持できているのかな…という風に思っております。

東西社友会におきまして色々な問題が、悩みごとなど、そういうものが沢山あるのではないかと思います。お互い交流を深めて、互いの社友会が益々発展して、会員の皆様方に何とか、楽しく過ごして頂ける場を提供出来ればと言うふうに思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ致します。

僭越では御座いますが、御指名ですので、乾杯の音頭をとらせて頂きます。

ニチメン大阪社友会の益々のご発展、及び本日ここにご出席の皆さん方のご健康と心豊かな一年であります様に記念して乾杯の音頭をとらせて頂きます。大きな声でご唱和をお願い致します。

乾杯!!

## 長寿者代表の挨拶

小野悌司



御指名に預かりました小野悌司です。

今年、米寿と言う事で、お祝いを頂き有難うございました。一言挨拶をということで命令を受けましたので、今から少しだけしゃべらせて頂きます。

米寿と言うのは数えで88歳。まだ私は正味

で言うと86歳なので、変な感じです。今年、同級生から頂いた年賀状の中で、矢張り米寿について、「私は米寿と言われるのはどうも不思議な感じがしてしようがない」というような

ことを書いておりました。私自身もやはり同じような感じ方だと思うんですけれど、米寿と言ふものを捉えている訳なんです。と言いますのも、私、先輩の方には誠に申し訳ないんですけども、私自身の事を言えば、小学校に入った時に支那事変が始まって、で、高学年になって大東亜戦争、それから太平洋戦争が始まっている。其の頃は、純粋な軍国少年でありましたから、多分自分の命と言うものは、20歳から30歳位までには消えて無くなるんだろうな…というような変な覚悟をしておったような記憶がございます。で、それが、終戦になって、まあ、戦後の教育を受けた訳なんすけれども、学校を出て、就職をしました。其の頃になっては、もう、海外と言うことも頭の中にありましたので、商社を選んで、現在のニチメンなんですけれど、当時は「丸栄」という船場の商社に入りました。そこへ入社して、3年目にニチメンに吸收合併されて、ニチメンマンになった訳であります。其の頃言っていたのは、商社マンと言うのは、寿命は短いもので、まあ、定年までおれたら十分だ、というようなことを言わっていて、「ははあー、自分の寿命はそれくらいか!」というように、単純にそういう風に思った訳であります。お陰様で、定年を過ぎて、今、年金生活に入ったと言うことなんです。

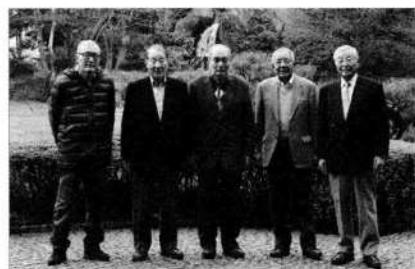
よく考えれば、ニチメンと言う会社の中で、会社の色んな手厚い健康管理だと、そういう事があったし、それに対して非常に感謝している訳なんです。この際、自分自身一生懸命働いて定年までに命が尽きる位、仕事をしたんかいなあ?という反省もしている訳であります。まあ、いずれにしても、定年で会社を辞めた時に

は、無事、年金で生活が出来ればなあ…という位の軽い考え方でおったのです。

この新年互礼会が始まって、皆さんの代表でここに出席させてもらうようになって、先輩方から米寿のお祝いを頂いた、自分は果たしてそれに相応しいようなことをやったのか?と思いますが、今日この壇上でお祝いを頂いた。誠にありがとうございました世の中だな、と思っております。何せ生まれて初めてこのような壇上で物を言うので、何をしゃべってるのか自分自身よう分らないが、まあ、そんなんで米寿は済んだ、今度は生きながらえば白寿と言う事なんすけれど、そこまで命永らえるかどうかは、天の思し召し次第と言う事です。

まあ、この様な変な感想を持った私です。

今日は皆さんからお祝いを頂き、そういう事で誠に有難う御座いました。





## 第12回 秋の親睦ウォーキング



毎年2回、桜の4月と紅葉の11月にハイキングしていますが、早いもので、第12回を数えます。

今春は桜で有名な「夙川方面」でしたが、4月7日は朝からあいにくの大雨で、残念ながら逆瀬川駅前で中止と決定しました。

コースリーダーは、逆瀬川在住の白水さんで、下見の段階から大変お世話になりましたが、このコースは紅葉も美しいので、秋にもう一度トライしようと言うことになり、11月17日(木)に歩きましたが、この日は打って変わった好天で、雲一つない秋晴れのもと14名で楽しくウォークができました。

阪急／逆瀬川駅前からバスで西宮ゴルフ場近くまで行き、甲山森林公园に向かってデコボコした「けもの道」を森林浴しながら歩きました。途中、仁川の源流辺りを渡りながら、少し登ったところに 甲山の展望台があり、松尾さんに集合写真を撮ってもらいました。いつも写真等世話になっている村松さんが風邪でお休みの他、この日はレギュラーの菊澤・山邑・内田さんらが所用等で来られなかったのでややさびしかった。中でも林喜久雄先生の歴史・宗教等

のご高説が聞けず残念と、同期の宅さんとも話したことでした。

昼食は、甲山から少し下ったところにある「関西学院大学」の学生食堂で、皆好きなものを食べたが、安くて結構美味しいので、家が近ければ又来たいとの声も聞かれたほどです。食後は、美しい校庭を散策し学食前で応援団部が近く行われるアメフト部の全日本大学選手権大会に出る西日本代表決定戦の為（対立命館大）チアガールを交えて一生懸命に練習しているのを見物できた。のんびりと休憩時間をとった後、午後は春に見損なった「夙川の桜並木」を肅々と歩いて、阪急・夙川駅へ向かいました。桜並木の紅葉が夙川の両岸に見事に継ぎ、モミジとは違った美しい風情でした。

15時前に駅前にていったん解散、遠路ご参加頂いた岡崎・白川さんやいつもアンカーを務めてくれる井上治さん等は帰えられたが、残った有志数名で、うまいビールを飲みながらの「反省会」を行いました。

来春は、桜の名所「背割堤」や石清水八幡宮方面を歩きますので4月3日(月)10時京阪／樟葉 駅前広場にご集合願います。

(2016年12月：殿護 記)

## 第12回春の親睦ウォーキング



第12回のコースは、「国宝・石清水八幡宮→背割堤の桜」約8kmでした。

「頭と足を鍛えれば、寿命は5年延びる」を、モットーに毎年、桜と紅葉のシーズンに昔仲間が集まって楽しく話合いながらのんびり歩いておりますが、今春も24名のご参加を頂き京阪・樟葉駅前から、松尾さんを先頭に村松・井上さんがアンカーで、国宝・石清水八幡宮を目指して歩きました。

レギュラーメンバー菊澤・山邑・宅・辻山・岡崎・美川さんをはじめとして、元山歩きグループの健脚組末信・内田・牧野さんや女性5名（山野・平松・立花さんとその友人作田・木谷）に加えて、龍田・八木・野沢・横山・錦織さんらのご参加があり、大変にぎやかになりました。途中「楠葉砲台跡」や「橋本渡舟場の遊郭跡」などを見学して、石清水八幡宮のある男山に上りましたが、歩いて登る組18人とケーブルカーに乗った白水・殿護ら6人の二組に分かれました。

しかし、ケーブルの乗り場までの下道が結構時間がかかった為、上に着いたのはほぼ同時で、皆一緒に由緒ある八幡宮に参拝し、地元の竹がご縁という「エジソン記念碑」や「男山展望台」から遠く「天下分け目の天王山」などを望んだ

後、再び二組に分かれて下山しました。

ケーブル下の「八幡駅」前で、また落ち合い、昼食弁当や飲み物などを補給してから、目的地の「背割堤」へ向かいました。駅前の数本の桜は既に五分咲位だったので、有名な「背割堤の桜」に一同期待していたのですが、誠に残念なことにこちらは殆どつぼみ状態でまさに、花一輪を探すような状態でした。2-3本の桃の木がピンクの満開で今年の関西地方の桜は、例年より一週間遅いと、現地で出会った「大阪ウォーキング連合」の知人たちも、皆落胆していました。（東京は満開なのに…）

ここは木津川・桂川・宇治川の三川が合流する場所で、洪水を防ぐための背割堤約1.5kmに250本のソメイヨシノが植えられており、一同堤防に座ってお弁当を広げましたが、好天に恵まれたことが救いでした。

食後、村松さんに記念写真を撮ってもらって一応解散し、自由散策しましたが一部の方は「八幡駅」前で、楽しい反省会をしてお開きとなりました。

今秋の第13回ウォークは、京の奥「鞍馬・貴船」方面で、紅葉の美しい2017年11月21日（火）の予定で、又ホームページ等でご案内致します。 2017/4/4（担当：殿護 隆司 記）



## 第19回ニチメンOB会コンペ



日時・場所：平成28年10月11日（火）

参加賞：10名（ボール各2個）

加茂カントリークラブ

幹事：宅、小上馬

優勝：濱田 誠紀

(41 + 47 = 88 HCP18 ネット70)

2位：岡崎 謙二

(46 + 39 = 85 HCP14.4 ネット70.6)

3位：安藤 中生

(41 + 52 = 93 HCP14.4 ネット74.6)

5位：松尾 哲雄

7位：三宅 通方

10位：小上馬 昭雄

15位：松岡 雄治

BB：木村 幸史

BG：岡崎 ボール

NP×3：小上馬、濱田、安藤、ボール各3個

DC×2：濱田、岡崎 ボール各3個

パーティ：4名 岡崎、濱田、安藤、大谷

（ボール各3個）

次回幹事：宅哲男（常任）

高橋康之（優勝者の濱田誠紀代理）

次回開催予定：

平成29年5月9日（火）六甲カントリー

10月10日（火）加茂カントリー

## 第5回日商岩井OBとの囲碁交流戦

恒例の日商岩井OB対ニチメンOBの囲碁交流戦が、3月13日(月)の午後難波囲碁センターで行われました。参加者は両チーム7名ずつ各3局、計21対局の結果はニチメンチームが辛うじて11勝10敗と接戦を制しました。

今回はニチメン勢では高橋堅太郎氏が昨年亡くなられ、高橋康之氏も急病で休まれるなど両

強豪を欠いたメンバーでしたが、その分各棋士が頑張って紙一重の差で幸運を得たようです。

終了後、場所を変えて打ち上げ会を持って相互の親睦を深めました。

(囲碁の会担当 白川清朗)

## 囲碁会からのお知らせ

毎月第2月曜日 午後1時～(祝日の場合は第3月曜日：於 社友会室)

毎月第2月曜日の午後、社友会室での囲碁の会もまもなく満4年を迎えます。

最近は「ニチメン囲碁部」から高段者を講師にお迎えして、より上達を目指しての指導を受ける一方で、9路盤、13路盤を用意して全くの初心者向けの対応もしています。

又、去る8月4日午後、日商岩井囲碁部対ニチメン囲碁部の第3回交流戦が行われて、日商岩井7名、ニチメン9名の計16名が参加して熱戦が展開され、結果は引き分けに終わりました。

今後も定期的に交流を図る予定です。腕に覚えのある方、これから一から習いたいと思われる方は是非ご参加下さい。

(ニチメン大阪社友会のホームページから)



## 大阪物語③

—天神橋商店街を支えたもの—

丸尾 嘉重

天神橋筋商店街（以下、商店街と略）は南北約2.6kmにおよそ600店が軒を連ねる日本一長い、繁昌している商店街である。これまでの商店街の歩みとその繁昌をもたらしたものを見えてみます。



### 商店街の歩み

この商店街は元々大阪天満宮の参道に店が集まり、天下の台所と呼ばれた天満青物市場が近くにあったところから庶民の盛り場として大阪きっての賑わいを見せるようになったところである。

その天満青物市場も昭和初期に移転してしまうが、丁度そのころ当時の新京阪（現、阪急電鉄）が天神橋六丁目に始発駅をつくり天六—淡路間の路線を開通させた。そして京都の桂一嵐山一四条大宮をつなぐ唯一の直通電車の始発駅として天六駅周辺には沢山の人が集まるようになった。

しかし戦後になり地下鉄—阪急電鉄の相互乗り入れで天六駅のターミナル性は失われてしまった。逆に大型店の出店攻勢にさらされるようになり、商店街としては独自の集客方法を考えなければならなくなってしまった。ここで土居年樹さん（初代連合会長）が登場する。

### 商店街を支えたもの①

#### 土居さんの発想力

土居さんは正に商店街の顔と言うべき人である。天神橋三丁目商店街振興組合理事長を1985年から務め、13年後1～7丁目の商店街が大同団結して発足した連合会の初代会長に就任した。本業の陶器店5店舗を展開している人だが、その会長としてのアイデアと行動力についてかねて敬服している毎日新聞（夕）編集長松井宏昌さんは土居さんについて次のように話す。「（アイデアが）土居さんからどんどん出てくる。アーケードに鳥居をつるすわ、天満のファンクラブ『町街トラスト』を発足させ大阪弁講話などユニークな催しを展開して人集めをするわ、国の商品券なんかアカンと天三の商品券を売り出して東京からマスコミが押し寄せるわ、新名所にと、かって逢引の名所だった（みょうと）夫婦橋の復元を構想する等々。さらに日本初の商店街立カルチャーセンターを設立して日本中の話題になり、講演などで全国行脚した。

さらに大切な事は空き店舗対策を考えたこと。「空き店舗のままにしておくと大型外食チェーン店などが乗り込んできて古くからの店がそちらに客を取らてしまう。それなら商店街で空き店舗を借りてしまおうと『商い繁昌委員会を設けた』と土居さんは語る。

#### 土居さんの商人哲学

- ・「商店街がなくなったら街が街でなくなる」
- ・「商店街の線だけでなく、周辺を含めて円を良くせなアカン」

ここから次の「天満天神繁昌亭」のアイデアが

生まれてくる。

### 商店街を支えたもの②



#### 天満天神繁昌亭（以下、繁昌亭と略）の誕生

繁昌亭は元々 2003 年、上方落語協建会会長に就任した桂三枝（現六代目桂文枝）が落語会を行える場所として空き店舗の提供を商店街に依頼してきたことにはじまる。しかし商店街には適当な場所がなく土居会長はこの提案を天神橋二丁目の大阪天満宮に持ち込んだ。上方落語協会を交えて話し合いを重ねた結果、天満宮内の駐車場になっている用地を無償で貸与し落語専門の「定席」（常設の寄席）を新設することで合意した。こうして 1957 年に戎橋松竹がクローズして以来半世紀ぶりに寄席が復活することになった。設費用—多くの市民、企業、NPOからの寄付で賄った。国や自治体の予算で建設されたものではなかった。繁昌亭の中に入ると天井からぶら下がった 1,200 個の白い提灯が見られるが提灯一つにつき 10 万円の寄付金額を表している。

設備—鉄筋 3 階建て敷地面積 591.06m<sup>2</sup>、建築面積 457.76m<sup>2</sup>、延床面積 589.93m<sup>2</sup>、座席数 216 の繁昌亭がこうして出来上がり 2006 年 9 月 15 日に開席した。その効果—繁昌亭の開席によって商店街への客足は確実に増えた。商店側は「おみやげグッズ」などの商品を開発し客の要望にこたえた。又、繁昌亭の着飾った客が商店街を通るようになり街の雰囲気も華やいだものになった。又、



商店街の客が繁昌亭に足を向けた。繁昌亭と大阪天満宮との関係も同様で商店街、繁昌亭、大阪天満宮三者の共存共栄がこうして実現した。

#### 土居さんの死去

2016 年 8 月 23 日、商店街の繁昌に永年力を尽くした土居年樹さんが亡くなった。79 歳であった。「繁昌亭」の開設に尽力した土居さんの功績を偲び落語家らも参列。約 350 人が最後の別れを惜しんだ。大阪天満宮の寺井宮司は「土居さんは商店街のために尽くし、天満宮や天神祭りを通して地域の大きな絆を作ってくれた。有言実行の人だった」と故人を偲んだ。

#### 「繁昌亭」十周年記念

2016 年繁昌亭の開場十周年を迎える、商店街で記念の「お練り」が行われた。（お練りとは祭礼の行列などがゆるゆる歩くこと）上方落語協会の桂文枝会長を乗せた人力車が山車からの寄席囃子に乗せて天神橋筋六丁目から繁昌亭までの約 2 km を練り歩いた。途中天神橋筋三丁目「土居陶器店」（土居年樹さんの店）の前では繁昌亭の開設に尽力し亡くなった土居さんを偲んで一旦下車。土居さんの遺影を手に迎えた長男の由憲さん（54）に「繁昌亭がここまで来られたのも土居さんのおかげです」と感謝の言葉を述べた。繁昌亭は 2016 年 8 月末現在で 139 万 6,384 人を動員した。



## スコッチウィスキーは地酒 (イギリス人雑感ー4)

柴田 隆

イギリスといえばスコッチウィスキーを連想するが、ロンドンに来て見ると、ウィスキーを飲んでいる人には滅多にお目にかかれないと。

スコッチウィスキーはスコッチとあるごとく、スコットランドの特産品である。ウィスキーはもともとアイルランドが発祥の地なのだろう。命の水という意味のアクアヴィタが訛ってウィスキーになったとのことである。

それまでスコットランドの地酒だったウィスキーが、19世紀末ロンドンで飲まれだし、当時七つの海を支配していた大英帝国の力で世界に名を知られることになる。

ゴルフで有名なセントアンドリュースはスコットランドの東側の海辺にある。日の長い6～8月に何度か訪れた。オールド・コースはパブリックだが、日中のスタートは難しい。この頃は午後10時でも明るい。他のニュー・コース（全部で4コースある）を日中廻り、午後五時頃よりオールド・コースを廻る。海からの強い風もあり、セーターを着いても段々寒くなる。心得たもので、キャディの爺さんはポケット瓶のウィスキーを取り出して飲んでいた。旅の恥はかき捨てと爺さんのお裾分けを受ける。寒い時のウィスキーは正に“命の水”であった。

スコットランドの人達は自分達のウィスキー

に愛着と誇りを持っているのだろう。ウィスキーに以下の厳しい条件をつけ、粗雑なウィスキーを排除している。

- 原材料は100%穀類であること。
  - 麦芽のみで糖化すること。
  - 製造地を表示すること。
  - 蒸留以外の製法は禁止。
  - 原酒を木の樽で最低3年熟成すること。
- たかがウィスキー、されどウィスキーである。

ポートベローのジミー爺さんはよくウィスキーの水割りを飲んでいた。彼に言わせれば、ウィスキーの水割りはウィスキーと水を同量とし、氷を一個入れて飲むのが本来の飲み方なのだそうだ。確かにこうして余り冷やさないで飲むとウィスキーの風味がよく味わえる。



## 仲原さんからの手紙

岡崎 謙二

この間、米国ダラスに住んでおられる、元ニチメンダラス店の所長をやっておられた仲原さんから（綿花出身で御年92歳くらい）、添付のようなお手紙を頂きました。実は現在、私の娘一家がダラスに駐在していたため、以前から聞いていた仲原さんを訪問し、ニチメンの現状をお話ししたうえで、私が日本に帰国してから、二回ほどニチメンの会報を（大阪と東京分）お送りしました。

今回その御礼のお手紙を頂いた訳ですが、会報がいかに懐かしく喜んで頂いているのかを、よく表しているのではないかと思う次第です。ご参考までにメールしておきます。もし会報の紙面にでも、少し載せて頂ければと思うところです。

岡崎謙二様

02/03/17

仲原博夫

ご無沙汰いたしておりますがお変わりございませんか。私どもも相応に暮らしております。中村さんからニチメンの会報を頂きました。とても懐かしくて隅から隅までじっくりと読ませていただきました。暖かいお心遣い深謝です。

49年に大阪に入社して55年にダラスに配属され、そのまま現地定年退職しましたので、私の存知あげてるニチメン人は比較的老人のわずかな方です。会報にはニチメン一家が感じられ感動的でした。（名誉会員リスト69名の内で名前と顔が浮かんでくるのが16名ですが）

社名がなくなっても、ニチメン同窓会が存続していることはすばらしいです。

大島又蔵さんが亡くなられたのは悲しいです。彼は棉花部受渡しから庶務に移ったのですが、人に好かれて顔が広く、人の世話をするのが大好きで、小まめに働く人でした。（私の新婚旅行は彼がたててくれました。）

森正子さんがphotoに写っていますが、昔と少しも変わっておられませんね。（一時帰国時にペンドティングのペーパーワークを庶務の森さんに助けてもらいました。）

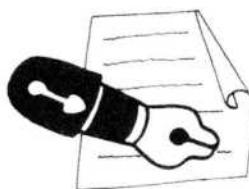
寄稿者の中に知った人がいます。

吉岡真治郎さんは棉花受渡におられて大変温厚な方でした。

福富直明さんと芳賀信明さんがヒューストンで鉄鋼をしておられた時ヒューストン店はJapan Cotton,Dallas の管轄下でしたから、よく存知あげています。福富さんは英語のタンティ小説を常に愛読しておられました。ご立派な作家になられた感じですね。いずれも40-50年前のことですが、懐かしいです。又、若返った気分になります。

繰り返し繰り返し読むと思いますが、本当に有難うございました。

気候不順の折、お体をお大切に。先ずはお礼まで。



### HAPPY BIRTHDAY WEEK

佐武 博司

9月13日（火）古巣の社友会出席

古巣の総合商社の大坂社友会総会が太閤園にて開催され、5月のアメリカ会と同様、娘の車の送迎で5年ぶりに出席。アメリカ会のことについては、つれづれエッセー“七夕さんの季節を迎えて”で触れたので省略するが、同会とあわせ総会に出席の方が多い中、アメリカ会では出会えなかった20人以上の懐かしい仲間ともトークができ、お互いの元気な姿を確認して再会の喜びをかみしめた。

その中の一人、ニューヨーク駐在時ご一緒だった入社5年先輩の方から、下記メールをいただいた。（その方は電機部門、私は繊維畠だった）

“Subject: 光陰矢の如し

昨日は5年ぶりにお会いでき、光陰矢の如し感しました。お元気な様子に一安心でした。「動く手すり」を身近に拝見しました。そして、今後の目標は「動く手すり」なしの生活が一日も早からんことかと拝察しました。その日を目標に引き続き頑張られますように祈ります”

もう50年も前に異国での知り合った先輩から、私の2012年2月の頸髄損傷事故以来励まし続けていただき、5年ぶりに再会して上記のようなメールをいただくとは本当に光栄で、ありがたいこと。

もう一人、5月のアメリカ会で再会の際、私に“以前より若くなったね”と繰り返し印象を語っていただいた大先輩（もうすぐ卒寿を迎

られる）が総会にもお元気な姿を見せておられた。その方からは、以前メールで、“病気（障害）にもメリットがあるんだよ！”と試練にめげることなく前を向いて！という趣旨の激励のメールをいただいたことがあり、私から“折に触れ、その言葉を思い出し、かみしめております”と改めて感謝の意を申し上げた。

9月14日（水）誕生日のお祝い

月・水の週2回リハビリに通っているデイケア・Sリハビリ施設で2日早く誕生日祝いをしていただく。スタッフ・利用者みんなで“HAPPY BIRTHDAY TO YOU”を唄って祝っていただいた後、記念の品を贈られた。

添え書きには、“いつも前向きに頑張っておられるお姿はとてもステキです。これからもどうぞお元気で（目標に向けて）素晴らしい1年となりますように”と綴られており、“職員一同いつも刺激をいただいております”との趣旨のコメントをいただいた。スタッフの皆さんに支えられ、リハビリ仲間とも折々に声を掛け合い、励まし合って、今ここに至っていることに感謝の念でいっぱい。

9月15日（木）～16日（金）岐阜県下呂温泉へ初めての旅行

娘のだんなが1泊2日で東京出張、次男が就活終了で一息中、三男は今週まで夏休みという機会に、下呂温泉へ、次男の運転で1泊2日旅行



した。室町時代の禪僧・万里集九（1428年～不詳）が有馬・草津と並び日本3大名泉の一つと下呂温泉を広めたとされる。（上の銅像の写真）

泊まったホテル（水明館）には、温水プールあり、15日ホテル着から夕方の食事までの間、2時間以上、水中ウォーキングと水泳、大浴場入浴を楽しんだ。（家内も久しぶりに背泳などでリラックス）

私は、プールに入るときと出るときは孫たちのサポートが要ったが、水に入ると、2月末に大阪のホテルのプールに入った時よりは、足の蹴りの力がついたのか、足があまり沈まず、クロールなども比較的スムーズにでき、孫たちも驚いていた。今回孫たちのサポートのおかげで無事旅行できたが、家に戻った翌日、孫（次男）からメールあり、“プールで歩いたり、泳いだりするおじいちゃんを見てすごくうれしかった！陸でも絶対歩けるようになるよ！”と。

ホテル内外の散歩は、相棒のロボット・アシスト・ウォーカー同伴、楽しく過ごすことができた。

### 9月17日（土）Sリハビリクラブで1日遅れの誕生日祝い

このリハビリクラブは創立2012年10月1日で、私は創立以来お世話になっており、14年の創立2周年記念日には“どんどん良くなっているで賞”をいただいたことあり。（いわく、“あなたは日々のたゆまぬ努力により無理と言われた動作を次々に獲得し、現在も安定した歩行を目指に邁進されています。その姿勢は職員のみならず他の利用者様にも大きな影響を与え、諦めずに頑張ることの大切さを身をもって示されました。よってここにその功績に感謝し表彰いたします”）

皆さんで“HAPPY BIRTHDAY TO YOU”を唄っていただいた後、一言挨拶を求められ、“齡

は(41X2)歳ですが、精神年齢は41歳以下です。おかげさまでここまでこられましたが、これからも皆さまのご支援いただきながら頑張っていきます”的、お礼を申し上げた。

### 9月19日（月）敬老の日

デイケア・S施設では敬老の日に先駆けて、先週14日（水）から各曜日利用者に対し、慶祝イベントを開催。祝い膳をごちそうになり、スタッフによる手品ショーを楽しんだ。在東京の息子宅からは、誕生日祝いの贈り物に次いで、敬老の日の祝いの品が届く。

以上がこの1週間の出来事。ちょうどリオ・パラリンピックの熱闘の終盤、クライマックスの時期に当たっており、知的・身体障害者がそれぞれのハンディをものとせず、ハンディを乗り越え限界に挑戦する姿に強い感銘を受けるとともに、私のリハビリにも力を与えてくれた。

### おわりに

これまでのリハビリ4年半余の間、私の人生で異質の新しい出会いあり。リハビリをサポートしてくれる理学療法士・作業療法士などセラピストの皆さん、身の回りをケアしてくれる看護師・介護福祉士などヘルパーさん、お互い声を掛け合い、励まし合いながらリハビリに励む仲間たち、それに我々とりハビリ施設の間を取り持ってくれるケアマネージャーの方々などとのありがたい出会いです。

この障害がなければめぐり合わせ得なかったかもしれない出会いですが、これとともに古巣の先輩方・同僚、学生時代からの友人・知人など

## 会員寄稿

古くからお世話になった多くの方々からお励ましをいただき、新しい交流・ご縁が深まったことも、私にとってかけがえのないものであり、宝物です。それと相まち今日あるは、身の回りを支えてくれる家族・親族の支援があってこそであり、これらすべてが重なり合って、まさに試練とりハビリが私の人生を豊かにしてくれたと言っても過言ではありません。～上記、古巣の先輩が、“病気(障害)にもメリットがあるよ”と喝破されたのはこのことかと思いをいたしているところです。(平成28年9月22日)

追伸：写真は娘一家と下呂温泉水明館にて



### 小浜小学校の課外授業参加

佐武 博司



2月16日(木)、宝塚市立小浜小学校で、小浜地域包括支援センターが支援する小学校4年生対象の「小学校 認知症サポーター養成講座」がありました。

目的は、“核家族化や地域のきずなの希薄化が進む中、子供が高齢者と接する機会が少なくなっている。高齢者のからだの老化やこころの状態を知り、誰にでも起こりうる認知症という脳の病気を正しく理解することで、すべての高齢者への接し方や人を敬う心を育み、自分たちができることを考えるようになる。”

このプログラムの“高齢者を理解する”—高齢者との交流—の項で、たまたま私が近くのデイケア・ステップハウスで木曜日当日の利用に当たっていたので、参画する機会がありました。小学4年生を対象にどういう内容・表現にするか、時間も10分ぐらいですので迷うところでしたが、下記の原稿を作成して臨みました。どこまで理解されたかどうか、お役に立てたかどうかわかりませんが、私の生の姿・声で実感はできたかと存じます。

帰りの廊下で車までお送りいただくスタッフの方に、「良い仕事をされていますね」と申したら、「そう言っていただくとうれしいです」とおっしゃいました。この種有意義な取り組みをされている皆様に敬意を表した次第です。

#### <話した内容>

私は現在82歳、今年9月で83歳になります。もともと体が丈夫で、10年ぐらい前まではマラソンも走っていました。宝塚マラソンが始まってからは、走路のコース誘導などのお手伝いもしていました。

5年前の2月、77歳の時でした。何かのは

ずみで自宅にて転倒し、あごから床におちて、ちょうどむち打ちのような状態になって「頸髄損傷」(けいついそんじょう) = 首筋の中枢神経をいためてしまいました。即、両手足麻痺となって、7か月の入院生活の後、自宅に戻りました。両手足麻痺という重い障害なので最初のころは、ごはん食べるにもプラスチックの茶わんも持てず、ハシもつかめない、お風呂に入るにも寝起きするにもヘルパーさん二人がかり、車いすに乗っても一人では車輪を動かす手の力もない、という状態でした。

私にとっては思いもかけない人生の試練に直面したのですが、「七転び八起き」ということわざもあります。私も何としても車いす生活から元の姿にもどりたい、また現役の仕事をしたい、という強い気持ちをもって、リハビリーションすなわち元の身体機能を取り戻すための運動・訓練に取り組んできました。

私がかつて38歳から毎朝のジョギング(ランニング)を始め、その積み重ねでマラソンも走れるようになった体験からも、「リハビリは根気」「リハビリが仕事」と自分に言い聞かせながら「毎日継続してリハビリに励む」ように心掛けてまいりました。ずっと車いす生活しながら、7か月間の入院中はもちろん、退院してからもこの近くのステップハウスとか御殿山のリハビリクラブなど3か所の施設に毎日通いながら、もう5年間リハビリを続けてきたわけです。

私のように80歳前後の高齢者で重い障害とか病気などになると、しんどいリハビリに耐えきれずに寝たきりになってしまう方も多いようです。

「継続は力なり」と申します。おかげさまで私の場合、リハビリをサポートしてくれる先生方は「例のない程どんどん良くなっているよ」とおっしゃっていただくのですが、自分の足ではまだまだ10秒も立っておれない、自力で歩くには程遠い現状です。

一昨年夏からはご覧の「ロボット・アシスト・ウォーカー」を相棒に、(このウォーカーは「動く手すり」と言われます)両手ハンドルを持つと自動で急な坂の上り下りもできるので安心・安全です。まさに命綱であり、救いの神です。このウォーカーのおかげで、御殿山の自宅から宝塚駅近辺までの5~6百メートルの距離を歩いて妻のショッピングなどの付き合いもできるようになりました。今年の目標は、自力で梅田まで電車に乗って行けるようになること、です。

今ここで皆さんにお目にかかれたのは、リハビリの先生方やリハビリ施設の職員の皆さん、訪問介護ヘルパーさんなどの熱心なサポートがあり、また学生時代や元勤務先の古い友人・知人などからの激励、身近で面倒みてくれる家族などの支援の賜(たま)物です。

もうひとつ大事なことは、施設でリハビリに励む仲間達との出会いです。お互い声をかけ合い、励まし合う縊(きずな、つながり・支え合い)です。1年、1年、年齢を重ねながらも認知症や寝たきりにはならないように、健康で長生きできるようとにみんな頑張っておられます。そういう姿を見れば皆さんもきっとお年寄りから逆に元気をもらい、勇気づけられるかもしれません。

リハビリ施設では、職員との間はもちろん、リハビリ仲間同士もお互い支え合い、いつも「感謝の心」をもって接し合っていますので、事あ

るごとに「ありがとう」の言葉が自然に飛び交っております。リハビリはしんどいですが、このような環境で日々を楽しく充実して過ごせますのでとてもありがたいことです。

皆さん、通りなどでお年寄りや体の不自由な方々を見かけられましたら、「今日は」「お大事に」「お気をつけて」などと声をかけてあげてください。みんなで協力して、宝塚が「高齢者や障害者に優しいまち」と言われるようになればいいですね。

ご清聴ありがとうございました。本日はお目にかかれてうれしかったです。

何か質問ありませんか！？”

質問の時間は少なかったのですが、次のようなやり取りがありました。

Q1. 好きな食べ物は？

A. 好き嫌いなしになんでもいただきます。

Q2. いくつまで長生きしたい（できそう）？

A. •母が110歳まで長生きしたので、それが目標です。

Q3. リハビリはつらいですか？

A. •つらい、といえばつらいですが、何としても再起したい、という目標があるので、前向きに頑張っています。

皆さんもこれからつらいことがあっても負けずに頑張ってください。

(平成29年2月17日)

## 銘酒「正宗」の記

林 喜久雄

毎年春と秋に赤坂御苑に於いて天皇・皇后主催の野外社交会（宴会）が開かれる。4月から5月にかけて開かれる、いわゆる「春の園遊会」と10月から11月に開催される「秋の園遊会」は、皇太子をはじめ各皇族方も列席する催しであり、招待客として総理大臣、衆参両議会議長、最高裁長官等三権各機関の要人、各界の著名人（芸能人・著者等）、功績者（オリンピックのメダリストなど勲章の受賞者）、外交使節団の代表者、各国大使及びそれらの配偶者を含めた2000～2500名が招かれる。「春の園遊会」で「お飲み物は？」と聞かれて「日本酒を」と答えると「櫻正宗」が、「秋の園遊会」では「菊正宗」が振る舞われることになっている。「櫻」は日本の国の花であり、「菊」は皇室の花だからかなと私が勝手に思い込んでいる。

さてその「櫻正宗」だが、この銘酒を造っているのが1919年に設立された「山邑酒造株式会社」から1992年に社名変更した「櫻正宗株式会社」である。「山邑」というとどこかで聞いたことのある名前で、それもそのはず、わが二チメン大阪社友会の山邑陽一さんの御一族である。「櫻正宗株式会社」の現在の社長・古い言葉でいうところの「御当主」様は第十一代目「山邑太左衛門」という方で49歳、寛永2年（1625年）伊丹荒牧村（現・兵庫県伊丹市）で創釀開始以来400年近い歴史を誇る名門酒造会社の御当主である。この蔵元の歴代の当主は全て「山邑太左衛門」を名乗ることになっているらしい。

なお山邑陽一さんは八代目太左衛門の弟の孫ながら酒が苦手で、ニチメン在職中は管理畠と国際事業とをおもに担当させていた。

ところで日本酒の銘柄や社名に「〇〇正宗」というのが実に多い。兵庫県でも前述の「菊正宗」あり、「大黒正宗」あり、お隣の大坂には「浪花正宗」、京都には「キンシ正宗」、東京には「丸真正宗」ありで、ざっと見ただけでも青森の「鳩正宗」、「岩木正宗」、秋田の「由利正宗」、山形の「山形正宗」、「沖正宗」、新潟の「お福正宗」、栃木の「国光正宗」、更に岐阜「達磨」、岡山「三光」、島根「ヤマサン」と「正宗」の酒銘が続く。この「正宗因縁話」のルーツを辿ってみると、その起源は天保年間（1800 年代）六代目当主、山邑太左衛門の時代にまで遡る。この六代目はいわば「中興の祖」ともいるべき出来物で、「宮水」という酒造に最適の伏流水を発見し、「高精白仕込み」という高品質醸造法を開発し、「正宗」（この当時は「セイシュウ」と読む）なる酒銘の使用を開始したのである。その前段階では従来長きにわたって使用していた「薪水」という酒銘が古びた時代遅れの感を免れず、時代の流れにフィットした斬新な酒銘への変更を模索していたのであった。天保 11 年（1840 年）のある日、熱心な禅宗信者であった六代目太左衛門は、親交のあった山城国深草の元政庵瑞光寺の住職に新酒銘の件を相談すべく訪問したが、生憎住職は留守中で、帰りを待ちつつ、ふと和尚の机の上を見ると、「臨濟正宗」という経典がのっていた。「音読みで正宗=セイシュウ——か。清酒=セイシュにも通じるいい名前だなあ」「よし、これで行こう！」と即決し、「正宗=セイシュウ」を樽印としたのが始まりであ

る。この「正宗」など高精白仕込みで醸し出された灘の清酒は正に絶品、「下り酒」と呼ばれ、大名・武家屋敷や商家、料亭、一杯飲み屋など江戸中で爆発的に売れ出したのだ。それを見た他の造り酒屋の蔵元達もこの酒銘にあやからうと「正宗」がらみの酒銘をつけるようになったのだが、当初太左衛門が考えていた「セイシュウ」とは読まれず、刀剣の銘であった「マサムネ」と読まるようになったのは皮肉である。

時代は降って、明治 17 年（1884 年）新政府による商標条例施行の際、当然当社は「正宗=セイシュウ」で登録申請したが、新政府は当時既に「正宗」がらみの酒銘の登録申請が多数あったことから、「正宗」が既に「普通名詞化」しているとしてこれを受理せず、代わりに日本の国花の桜の 1 字を冠して「櫻正宗=サクラマサムネ」として登録申請を受けつけることになったのである。

JR 住吉駅から出ている六甲ライナーの一つ目の「魚崎駅」に降りると、目の前を住吉川の清流が流れ、その上流に向かって右手一帯が「灘五郷」のひとつ「魚崎郷」である。その魚崎郷のほぼ中心に「櫻正宗」の酒造工場があり、またすぐ近くの住吉川沿いに櫻正宗記念館=レストラン「櫻宴」がある。「櫻宴」のグルメ尽くしの料理を肴に「櫻正宗」の淡麗辛口の大吟醸を賞味してみると、生きる喜びが腹の底から湧き上がってくること必至、感動のあまり寿命が 2~3 年は延びること間違いない。目を対岸つまり左岸に転ずれば、そこはまた灘五郷の一つ「御影郷」である。その中に先述の「菊正宗」の工場及び展示場があり、左岸沿いに谷崎潤一郎の旧邸宅「倚松庵」（入場無料）がある。

## 会員寄稿

余談になるが、日本酒大好き人間の筆者が独断と偏見で日本酒処の都道府県を大相撲の番付に当てはめてみると、最上位の横綱は歴史・伝統・質・量とも圧倒的にわが兵庫県である。一人しかいない。一人横綱だ。次の大関は三人、秋田、新潟、京都である。横綱兵庫が「山田錦」、大関新潟が「5百万石」という独自の酒米を開発しており、それに関脇格の長野が造り出した「美山錦」と合わせて、日本酒の原料用酒米の大部分はこの3銘柄でカバーされている。

さて余談のまた余談になるが、その大関たる秋田の銘酒に「爛漫」がある。蔵元は「秋田銘醸株式会社」、大正11年（1922年）2月1日創立、同年12月1日醸造開始、歴史的には400年の「櫻正宗」には較ぶべくもないが、純米酒「まなぐ帆」は女性にお薦めしたいソフトな甘口酒である。特筆すべきはこの蔵元の当主、即ち社長が京野勉氏、ニチメン・プラント本部OBである。秋田には、「新政」、「高清水」、「飛良泉」、「出羽鶴」、「秀よし・あまからびん」「両関」等々大関に相応しい強豪が居並ぶ中で、「爛漫」も引けを取らずにその存在感を堅持している。

「櫻正宗」も「爛漫」もニチメンOB関連の蔵元で醸し出された東西の銘酒、両者をじっくり飲み比べてみては如何かな。

（平成28年9月26日）

コーヒーブレイク

### “18歳と81歳”

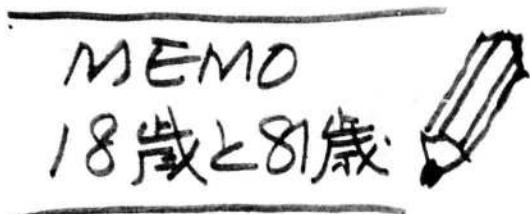


白川 清朗

- 道路を暴走するのが 18歳。  
逆走するのが 81歳
  - 心がもろいのが 18歳。  
骨がもろいのが 81歳
  - 偏差値が気になるのが 18歳。  
血糖値が気になるのが 81歳
  - 恋でおぼれるのが 18歳。  
風呂でおぼれるのが 81歳
  - まだ何も知らないのが 18歳。  
もう何も覚えていないのが 81歳
  - 東京オリンピックに出たいと思うのが  
18歳。  
東京オリンピックまで 生きたいとおもう  
のが 81歳
  - 嵐というと 松本 潤を思い出すのが 18歳。  
鞍馬天狗の嵐寛寿郎を思い出すのが 81歳
  - 自分探しの旅に出かけるのが 18歳。  
出かけたままわからなくなって みんなが  
探しているのが 81歳
- 以下 大平さんの 追加5か条
- 免許取るのが 18歳  
返却するのが 81歳
  - 階段を走って登るのが 18歳  
転げて落ちるのが 81歳
  - お姫様抱っこをするのが 18歳  
されるのが 81歳
  - どんぶり一杯のメシを食うのが 18歳  
手のひら一杯の薬飲むのが 81歳

- オフクロを無視するのが 18 歳  
女房に無視されるのが 81 歳  
大平さん勝手にご披露してごめん 三宅通方

- 最後に白川の駄作を一つ  
番茶の出初なは娘 18 歳  
干した茶がらは元ギャル 81 歳  
白川 清朗



## 熊野古道

金谷 安勝

### 1. 京から熊野の入口（口熊野）まで

熊野道（くまのみち）は京と熊野三山との往還に使われた道という意味で、識字率の低かった江戸時代より前は道標には「くまの道」と書かれていたようです。また、熊野古道は平安時代から鎌倉時代に天皇・上皇が熊野三山に参詣された時代に使われた古い道という意味です。熊野とは動物の名前とは関係なく、古代では、国家の中心から遠い奥まった辺境の土地のことでした。比較的新しい時代（1806 年）に刊行された「紀伊続風土記」では、熊野は「隈」であり、鬱蒼たる森林に覆い隠されているところとしています。熊野は山ばかりで、お米の取れない辺境ということです。「熊野」は、現在の田辺湾から東の伊勢との国境までをいいます。飛鳥時代から明治維新までの行政区画では、紀伊國の西牟婁郡・東牟婁郡・南牟婁郡・北牟婁郡を、平成の行政区画では、西から東に順に、和歌山県田辺市・西牟婁郡・東牟婁郡・新宮市および三重県南牟婁郡・熊野市・尾鷲市・北牟婁郡となります。その面積は 3140km<sup>2</sup>、人口は 27 万人です。日本で一番人口の少ない鳥取県は面積 3500km<sup>2</sup>、人口 57 万人で、熊野より狭い佐賀県は面積 2440km<sup>2</sup>、人口 83 万人です。あまりに人口が少ないので、熊野地方の全日制高校は県立 10 校と私立 1 校しかなく、このうち和歌山県の 5 つの県立高校に学生寮があります。私の母校にも昔から学生寮があり、同級生

## 会員寄稿

が学生寮や下宿から通学していました。JR 田辺駅から二つ目の朝来駅の近くの熊野高校から南端の串本駅の近くの串本高校まで、海岸沿いに住むに適した平地が無く人口も少ないため 11 駅・60 km の間は、全日制高校がありません。尚、上に述べた熊野高校は、戦後の学制改革までは和歌山県立熊野林業学校といい、西牟婁郡・東牟婁郡の林業の指導者を養成する学校でした。ニチメンの大坂木材部にも卒業生がおりました。歌手の坂本冬美さんも熊野高校の卒業生です。

上記のお話の中で出てくる地名に「口熊野」と「牟婁」があります。どちらも田辺湾の周辺をいいます。「口熊野」は熊野の入口という意味です。牟婁は「室」と同じで、囲まれた静かなところという意味で、波風のない港を表します。飛鳥時代（592 年～710 年）以降、田辺湾の周辺地域は「牟婁」と呼ばれ、湊は「牟婁ノ港」、温泉は「牟婁ノ湯」と言われました。私の母校の田辺第一小学校の校歌（明治時代）には、「牟婁の港とその名も古く、海山巡り豊けきなかに、」と、田辺高校の校歌（昭和 24 年）には、「並み寄ろう牟婁山脈のさやけさに、」とあります。皆さんご存知の温泉の住所表示は、白浜温泉は西牟婁郡白浜町、勝浦温泉は東牟婁郡那智勝浦町というように地元では牟婁は普通の地名です。

熊野の中心は、東牟婁郡の東部にあり、この周りに熊野三山、すなわち熊野本宮大社（創建は崇神天皇の代）、熊野速玉大社（創建は景行天皇の代）、熊野那智大社（創建は仁徳天皇の代）が鎮座されます。本宮と速玉の神々は、伊邪那美尊を第一殿、伊邪那岐大神を第二殿とし

て全部で 12 殿あります。那智の神々は、大国主命（飛瀧神社）を第一殿とし、以下、本宮・速玉と同じ神々を祭祀しており十三権現と言われます。

熊野の中央を流れるのは熊野川で、神武天皇東征紀では、大阪の生駒山で長髓彦に敗れ南下して、熊野川の川口から、天照大神の遣わした八咫烏の先導により大和の平野に入り長髓彦を打ち破り大和政権を建てたといわれています。八咫烏は素戔鳴尊（伊邪那美と伊邪那岐の子）に使える者とされていますが、熊野の先住民ではないかと思われます。尚、熊野三山では八咫烏は神の使いであるとされ、シンボルマークを八咫烏とする日本サッカー協会は、ワールドカップの前に熊野本宮大社で必勝祈願が営まれます。この熊野三山への京都からの参詣道を熊野道と言います。古代においては、飛鳥時代に有間皇子（640 年～658 年）の謀反による処刑が和歌山県海南市藤代であり、謀反の誣議を受けるため、当時、牟婁の湯（現在の白浜温泉）に滞在していた天智天皇に呼び出され、向かう途中に作ったといわれる万葉集の歌「磐代の浜松が枝を引き結び ま幸くあらば また還り見む」があります。海南市藤代は、自動車で和歌山から国道 42 線（熊野古道に並行する）を南下し、海南市の南端の土地で熊野古道が境内を通っている藤代神社（神官は藤代鈴木氏の末裔で穂積姓鈴木氏の本家といわれる）が鎮座される場所です。また磐代（岩代）は御坊市か



ら 15 分くらいで到着します。現在でも岩代の手前にある切目崎から斎明天皇や中大兄皇子が滞在していた牟婁の湯の半島が田辺湾の向こうに見えます。上記の歌は、このあたりで読まれたものと推測されます。古代にはすでに、紀伊国の中府（和歌山市の東方）から牟婁の湯（白浜温泉）の間には道ができていたようです。尚、500 年後の鎌倉時代に岩代に岩代王子が建立されています。

熊野道の往来が盛んになったのは、908 年の宇田天皇の熊野御幸以降といわれ、以降、明治維新に至るまで 900 年にわたって熊野詣でがおこなわれていたといわれます。その道筋を現在の交通網と比定しながら京都を起点とし、九十九王子に沿ってその道筋をたどりましょう。九十九王子は、熊野古道沿いにある神社のうち、主に 12 世紀から 13 世紀にかけて、皇族・貴人の熊野詣に際して先達をつとめた熊野修験の手で急速に組織された一群の神社をいい、参詣者の守護が祈願され、また、休憩所や宿営場所として利用されたものです。明治の神仏分離令（修験道の禁止）と神社合祀令は熊野に深い傷跡を残し、博物学者南方熊楠の奮闘にもかかわらず、明治 39 年に施行された 1 町村 1 社を原則とする神社合祀令は熊野に壊滅的なまでのダメージを与えました。熊野信仰は古来の自然崇拜に仏教や修験道などが混交して成り立ったある意味「何でもあり」の宗教で、村の小さな神社が廃止されただけでなく、歴代の上皇が熊野御幸の途上に参詣したという歴史のある熊野古道「中辺路」の王子社（熊野三山の分祀社）までもが合祀され、廢社となりました。田辺から本宮まで二十数社あった中辺路の王子社で廢

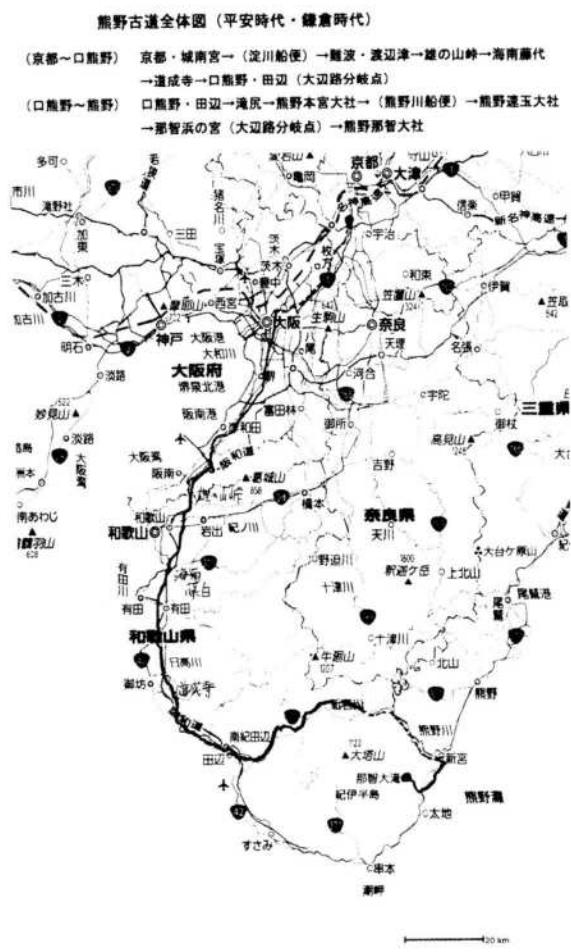
社にならずに済んだのは、なんと、八上王子と滝尻王子のみで、五体王子のひとつとして格別の尊崇を受けた稻葉根王子や発心門王子でさえ合祀されたのです。現在は、元の場所に石碑が建っているのみです。

京都の出発点は、城南宮（京都市伏見区）でここから船で淀川を下り難波の渡辺津に着きます。渡辺津は飛鳥時代の難波宮の外港として作られたもので、淀川の川口に当たり、現在では天満橋の近くの八軒家浜発着所あたりになります。平安時代初め頃、小野篁が遣唐副使として難波からの船出に際して読んだといわれる百人一首の「わたの原 八十島かけて 潟ぎ出でぬと 人には告げよ 海人の釣舟」という歌があり、渡辺津からは、現在の北区・福島区・此花区・西淀川区のあたりには、数多くの砂の島々が見えていたことが想像できます。尚、平安時代の淀川川口の港は左岸は渡辺津で右岸は江口（東淀川区南江口）であったといわれます。江口の君堂（東淀川区南江口の寂光寺）の西行法師と江口遊女妙の話や、鎮西八郎為朝の母が江口の遊女であったといわれ、瀬戸内海と京都を結ぶ港町として貴人を相手とする高級遊女も多くおおいに賑わっていたものと思われます。熊野古道は、渡辺津に上陸後は、東天満で国道 1 号線より分岐する府道 30 号線（大阪和泉泉南線）をたどり、JR 阪和線の和泉橋本駅からは府道 64 号線（紀州街道）となり、府境にある雄の山峠へと続きます。すなわち、上町台地の西斜面の谷町筋を南下し、四天王寺からは阿倍野筋を南下して阿部王子神社（阪堺電車松虫駅の南）横を通り、大和川を渡り南海高野線堺東、阪和線和泉府中、阪和線和泉橋本と通過して、

阪和線新家駅の西で、府道 64 号線（和歌山貝塚線・紀州街道）と名前が変わり、阪和線和泉鳥取を通り、山中渓駅を府道 64 号線・JR 阪和線・阪和自動車道の 3 つの路線が上になり下になり左になり右になり狭い峡谷をよじれながら紀泉山脈を越えます。峠を越えると阪和自動車道と JR 阪和線は大きく西に進路をとり、戦国時代にできた和歌山の旧城下町の外辺をとおります。64 号線はまっすぐ南に向かい紀の川にかかる川辺（川鍋）橋を渡り、JR 布施屋（ほしや）の駅から集落を南に横切り県道 9 号線（岩出海南線）に入ります。この道はローカルの生活道路で熊野古道とほとんど重複しているため熊野古道の趣を残しているといわれます。県道 9 号線は、紀伊風土記の丘の東を抜けて、わかやま電鉄貴志川線の伊太祈曾駅で鉄道と直角に交わります。この鉄道の終点は猫の駅長のいる貴志駅です。熊野古道は伊太祈曾駅の南にある紀伊の国一の宮・伊太祈曾神社の横をすぎ、西国 33 番札所の第 2 番・紀三井寺のある名草山の東 6 km のあたりを通ります。紀三井寺のある和歌の浦は山部赤人の「若の浦に潮満ち来れば潟をなみ葦辺をさして鶴鳴き渡る」という歌で昔から歌枕として有名ですが、熊野古道からこの海岸までは、相当の迂回をする必要があります。現在の和歌の浦は海岸で、葦が生えていませんが、紀の川の川口は阪和自動車道の紀の川橋の上流で南下し、紀三井寺の前を流れて和歌の浦に注いでいたそうです。従って、奈良時代には川口部分に葦の原が続いていたと想像できます。尚、流れが現在のようになったのは、1498 年の明応地震の津波によるものだそうです。ついでですが、この地震で浜名湖と遠州灘

が繋がり浜名湖が塩水湖になったといわれています。熊野古道は、伊太祈曾から西南に出て阪和自動車道の西に出て、さらに南に向かい海南の藤白神社に達します。さらにこの神社の後ろにそびえる長峰山脈をよじることになります。長峰山脈は紀南と紀北の境界となっていて、この山脈から県の南東の端の新宮市までが衆議院の和歌山第三選挙区であり、紀南と言われる過疎地域で、面積 3,556.31 km<sup>2</sup>・人口 329,150 人で、人口密度は秋田県より少しおおいようです。（有田市は 2013 年の区割り変更で和歌山 2 区となっています）現在はこの道のすぐ東を阪和自動車道の 3 つのトンネルが通り、15 分で海南から有田川に到着しますが、難波からきた熊野古道の最初の難関がこの長峰山脈越えです。熊野古道は、海南から有田川まで直線で 12 km ほどですが、実際に生駒山を 2 回上り下りする登山道とおなじようなもので、30 km ほどにもなり、1 日行程であったと思われます。途中に王子（休憩所）が 6 つもありました。有田川を渡ったあとは、国道 42 号線と重複しながら、広川町に達し、現在は踏み分け道となっている鹿の瀬峠を越えて日高町原谷を下り JR 内原駅でいったん 42 号線に合流してすぐに分かれて山沿いの道を進み道成寺（701 年創建）横の九海士王子に至ります。道成寺は「安珍清姫の伝説」や歌舞伎の「娘道成寺」の舞台です。道成寺と岩内王子の間で日高川を渡り、2 km ほどで美人王子といわれる塩屋王子があります。塩屋王子からは熊野古道と国道 42 号線は重複したり並行したりして田辺市北新町の中辺路と大辺路の分岐点までいくことになります。途中にある切目王子は「平治物語」によると平

清盛が熊野への参詣の途中に源義朝挙兵によりここから引き返したということになっており、NHKの大河ドラマ「平清盛」でもこのシーンが再現されていました。また、みなべ町の千里王子は難波から熊野本宮大社への道中で唯一の海岸の砂浜を通る道であったといわれます。現在は8,000本の梅が咲き誇る千里梅林という隠れた名所で、夏には浜辺に赤ウミガメが産卵に上陸します。三鍋王子（みなべ町北道）と芳養王子（田辺市芳養町）のあいだの堺漁港のあたりが古代からの日高郡と西牟婁郡の境界で、芳養王子が熊野の国の最初の王子となります。



## 2. 口熊野から熊野那智大社まで

熊野に入ってからの二つ目の王子が出立王子で、出立ちの浜（田辺市江川町）があり、京からの旅の汚れを落としこれからの旅の安全を祈念するため潮垢離を行った場所です。現在でも、田辺市の闘鷄神社の夏祭りの初日に、出立の浜で神社の禰宜が潮垢離の儀式を行います。熊野古道は出立王子から東へ向かい、私の生家の前を通過し、300mほど東に行くと、中辺路と大辺路の分岐路に至ります。分岐路には道標がたっており、幼稚園に通園していた頃は毎日この道標の前を通るのですが、何と書いていたのかわかりませんでした。道標は、京から来た場合は「左りくまの道 すぐはおおへち」、熊野本宮から来た場合は「左りおおへち 右きみみてら」、大辺路から見れば「すぐはきみみてら 右くまの道」となっています。大辺路はこの道標を右に見ながら直進し、南端の串本を経由して熊野那智大社に至ります。熊野三山の本道である中辺路はこの三叉路を起点とし、国道42号線（大辺路）と別れ左折して県道207号線・35号線を経由し低い岡を越えて上富田町岩田で国道311号線（中辺路）に入ります。この交差点の近くにある稻葉根王子（上富田町岩田）から上流の滝尻王子（田辺市中辺路町栗栖川）までは富田川を何度もわたりながら結構面倒な道筋であったようです。滝尻王子は二つの川の合流点にあり、ここからが熊野三山の神域になります。滝尻王子に至った天皇・上皇は奉幣を行い滝尻王子の目の前の流れに身を浸して水垢離の儀式を行ったといわれます。ここから近露王子までは、左側の国道311号（富田川

沿い）とかなりはなれて逢坂峠まで尾根伝いの難路に入ります。なぜ尾根伝いのみちを選択したのかはよくわかりませんが、谷川を渡る難儀をさけたのではないかと思います。国道 311 号線（熊野街道）は栗栖川福定の集落を過ぎて新逢坂トンネルをあつという間に通り過ぎますが、熊野古道は新逢坂トンネルの上をくねくねと通って、滝尻から近露王子まで一日かかったと思われます。近露王子は日置川の上流の盆地の中にあります。熊野では珍しく狭いながらも平地に集落がある桃源郷のようなところで、熊野古道が世界遺産となってから多くの観光客が訪れるところとなりました。近露から東へ 5 km ほどは、国道 311 号線に並行して熊野古道が通っており、観光バスの駐車が可能なので、牛馬王子、継桜王子、野中の方杉、秀衡桜など小さいながらも観光スポットになっていて熊野古道でも人気のある地域です。継桜王子の東にある子広王子は国道 311 号線の子広トンネルの上にあり、この峠を越えると熊野川の流域となり、また、西牟婁郡から東牟婁郡になります。この峠から熊野本宮大社までの道のりは、直線で 20 km ほどですが、多くの峠を上り下りしなければならず、集落もほとんどない地域です。熊野古道も明治以降は通る人も少なく、現在でも道筋を特定できない場所が多いといわれます。本宮への途中、三越峠を越え、猪鼻王子と発心門王子を通ります。このあたりを流れている川は音無川と言います。女優の音無美紀子さんのご先祖はこの川の流域のご出身ということです。紀州では、長女の名前に紀州の「紀」をつけることがあります、同級生に美紀子、由紀子、紀代子、紀恵子などがおられます。せっかく音

無川まで下ったのに発心門（仏の道に入る気構えをする）王子より最後の尾根伝いの道に入ります。発心門王子から 4 km で伏拝王子に到着し初めて谷合に熊野川の中にある昔の本宮の社殿があった中州を見晴らすことができます。さらに坂道を 3 km ほど下ると本宮に参拝する前の禊場所である祓殿王子に至ります。この王子の隣が熊野本宮大社となります。熊野本宮大社はもともと熊野川の中州に鎮座されていましたが、明治 22 年の水害で流出し、現在は対岸の丘の中腹に鎮座します。因みにこの水害では田辺市元町では日雨量 901.7 mm・時間最大雨量 169.6 mm の記録があり、和歌山県の田辺および中辺路地方と奈良県十津川流域で 2394 人の死者を出し、特に十津川村が大きな被害を受け、村落の再興を断念して北海道に移住していった人々が多くおられたということです。この村は現在の北海道樺戸郡新十津川町で町章は奈良県十津川村と同じものを使っています。熊野本宮大社への参拝の前後には、熊野本宮大社から 4 km ほどの距離にある湯の峰温泉（開湯は成務天皇の代 4 世紀）で休養し旅の疲れをとつてからということで、14 世紀以降に利用されるようになったようです。ここには日本最古の共同浴場と言われる「壺湯」があり、現在でも観光客が利用しています。さて、熊野本宮大社に参詣のあとは、本宮大社の横より新宮の熊野川の浜まで船で下ったといわれます。現在の川下りの舟は本宮大社から 15 km ほど下流の新宮市熊野川町宮井の乗船センターからでており、ここから新宮まで 1 時間半の川下りになります。従って、往時は本宮から新宮まで半日ぐらいで到着したのではないでしょうか。乗

船センターからは吉野熊野国立公園の観光スポットである上流の「瀬八丁」へのジェット船も出ていますので、時間ある場合は一度乗船されることをお勧めいたします。熊野速玉大社は権現浜の船着き場の近くにあります。近くには佐藤春夫記念館、徐福公園（秦の始皇帝の使者として不老不死の薬を求めて来航した徐福の墓といわれるものがある）、神倉神社（熊野速玉大社の本宮で、山の上の神殿から松明の群れが下る夏の御燈祭で知られる）浮島の森（国の天然記念物で日本最大の浮島と泥炭の池）などがあります。熊野速玉大社参詣のあとは引き続き熊野那智大社に向かいます。熊野速玉神社からJR新宮駅の近くを通り海辺に出たところに浜王子の神殿があります。熊野川川口からこの王子を通って三輪崎に伸びる砂浜は王子ヶ浜と言います。浜の途中で国道42号線が海岸沿いになり西の方に向かいます。途中、長忌寸意吉麻呂（ながのいみきおきまろ）の万葉集の歌「苦しくも降り来る雨か 三輪の崎 狹野の渡りに家もあらなくに」に出てくる佐野にある佐野王子を通ります。すでに鬼籍に入られているニチメンモスクワ所長をされていた山本寧雄さんのご両親は新宮のご出身で、ご本人は晩年は故郷に戻り佐野に住んでおられました。佐野王子から5kmほどで那智・浜の宮王子に着きます。この王子址にたてられているのが熊野三所大神社（くまのさんしょおおみわしゃ）で、熊野那智大社ほか各所所蔵の那智参詣曼荼羅に社前の浜から渡海船で出航する渡海僧が描かれているように、この隣接する補陀洛山寺とともに補陀洛渡海の伝承地として知られています。ここから那智川に沿って山の方向に向かいます。この

道は、2011年の台風12号の洪水で死者12人、行方不明者1人を出した現場でもあり、小学校の低学年（昭和25年頃）の夏休みの暑い盛りに母に連れられて「なちさん」にお参りしたときに手を引っ張られて6kmを歩いた記憶のある道でもあります。多富氣王子を過ぎ大門坂を上りきると熊野那智大社（青岸渡寺）です。熊野那智大社と青岸渡寺（西国三十三の第一番札所）は並置されており、神仏習合の色を濃く残した聖地です。那智の中心はなんといっても那智の滝で、ここでは瀧そのものがご神体ですが、同時に大国主命であり薬師如来で、飛瀧神社となっています。この神社には鳥居はありますが本殿も拝殿もなく、自然崇拜の色を濃く残しており、滝の落ち口幅はかなり広く（15mくらいあります）に渡されたしめ縄が神様であることを示しています。このしめ縄は神官により年に一度取り替えられます。熊野那智大社には13殿の神社があり、神殿としては6棟あります。最初の5殿は、ご神体はひとつずつ、第6棟は長い建物で8神が鎮座されます。第1棟は飛龍権現といい大国主命を祭神としますが、修験道では同時に薬師如来であるといわれます。

尚、熊野本宮大社と熊野速玉大社では明治の神仏習合廃止令により佛堂はすべて廃棄されましたが、那智では如意輪堂が破却を免れ信者により青岸渡寺（如意輪觀音）として復興され、現在でも西国三十三所第一番札所として参拝者に熱く信仰されています。

さて、京都への帰り道はというと、一番多かったのは来た道を戻ったようです。

修験者がや西国三十三番札所巡りの巡礼者が

A contribution by the member

使ったといわれる雲取り越えは、二つの峠道からなり生駒越えと六甲越えをあわせて行うような道ですが、熊野川の状況に左右される中辺路よりもリスクが少なく距離も身近かったと考えられます。また、大辺路を通って京に向かう人もいたようですが、距離が長く中辺路よりも多くの時間がかかりました。私にとって「熊野古道であるな」と思う道は、生まれ育った田辺の町を中心とした生活道路でありますが、もっと若かったらもう一度行ってみたいのは、一番熊野古道らしい滝尻から熊野本宮までの尾根道です。旅程を作つてみました。

## (一) 目

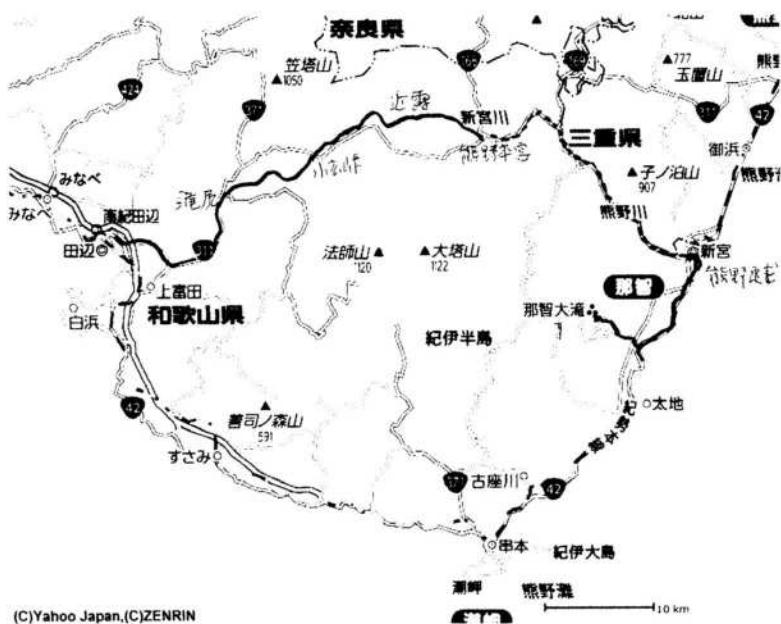
新大阪・特急黒潮 7:33 発→紀伊田辺 9:58 着  
バス 10:15 発→滝尻 10:53 着  
徒歩で近露王子 18:00 着 近露宿泊

(二日目)

近露王子 9:00 発 徒歩で 本宮大社 15:30 着  
湯の峰 17:00 着 湯の峰宿泊

(三日目)

湯の峰 8:50 発 バス 権現前 9:55 着  
熊野速玉大社参拝 権現前 11:00 発  
バス 那智駅 12:09 着 那智駅 12:18 発 バス  
那智山 12:35 着 熊野那智大社参拝  
那智山 13:55 発 バス 勝浦 14:20 着  
15:57 発 特急黒潮 新大阪 19:50 着  
東京の方は  
行きは 羽田 7:25 発 JAL 白浜 8:40 着  
白浜 9:28 発 紀伊田辺経由バス  
帰りは 15:57 発 特急黒潮 白浜 17:22 着  
タクシーで空港へ 白浜 18:35 発  
JAL 羽田 19:40 着  
一度チャレンジする人はいないですか。



## センチメンタル・ジャーニー（ビルマ編）

龍田 誠一

以前より社友会の山邑さんより会報への寄稿の依頼があり、何をテーマにするかはこれまでの海外赴任先ビルマ、ベトナム、カンボジア、台湾の中で何かをと考えておりました。その中で初めての海外赴任先ビルマ（ミャンマー）に今から10年前の2007年23年振りに家族と共に訪れた際のことを記したいと思います。

尚、私にとりましては馴染みあるビルマ・ラングーン（i/o 現在のミャンマー・ヤンゴン）を主に表記し混乱させることと思いますが、どうぞご容赦の程お願い致します。

「龍田さん！見つかりましたよ。」

2007年初夏、双日㈱ヤンゴン兼子敏明支店長よりe-mailが入りました。この年の夏に我が家にとって23年振りのビルマへの小旅行を計画し、その際に駐在当時の社宅スタッフや長女の現地幼稚園の先生に会えればと思い彼らの安否確認を頼んでいたものです。

1984年我々家族が約3年間の駐在を終えビルマを離れてから、1988年のビルマ全土に亘る民主化運動から軍政移管への過程で、多くの死傷者がでたことは当時日本でも連日報道されていました。それだけに非常に心配し兼子君からの一報を受けひと安心、彼らとの再会にも期待に胸を膨らませつつ、バンコック経由ビルマ・ラングーン空港に向かいました。

8月のムっとする暑さを感じながら当時のラングーンに思いを馳せ、新しくなった（？）国

際空港を後に市内に向かいました。車内から見るオフィスビル、ホテル、アパート等々当時は考えられない近代的な建物に驚きながら湖畔に佇むカンドジ・ホテルに到着、三泊四日のセンチメンタルジャーニーをスタートさせました。

双日ヤンゴン支店を訪問。当時は朝出勤すると門番が「ミー、ミヤブー」（電気きていない→停電。記憶の中のビルマ語で正確かは？です）と困った顔でよく言っていたのですが、今や立派なオフィスビルの一画で業務している様子に時の流れを感じました。しかしながら、当時のニチメン・ラングーン支店のスタッフが4名元気に働いており彼らとの感激の再会、お互い歳はとったものの一気に当時に戻ったような懐かしさ、と同時に長年ずっと日綿実業・ニチメン→双日の事務所を支えてくれていることに心より感謝致しました。

翌日の娘にとり初めての学校「Diplomat School」の先生との再会では、辺りを憚らず喜びあいました。娘は大好きな先生と離れるのが嫌で2歳から3歳への進級を頑なに拒み、回りを困らせました。「この頑固なところはこの娘のよいところなので、上手く伸ばしてあげて」と娘のよき理解者だった先生は大きくなった娘に涙が止まりませんでした。

次に社宅スタッフとの再会では、当時一緒にいる時間が多くビルマ語がペラペラだった娘を自分の子供の様に可愛がり、我々が帰国の際には「マスター、この子だけはビルマに置いていて下さい」と真剣な眼で訴えてきたナニー（子守り役）さんは、大人になった娘に戸惑いながらも手を握りしめていました。ところで、社宅スタッフは少数民族カレン族出身の姉妹だった

## 会員寄稿

のですが、ある日、反政府勢力・カレン民族解放軍の活動家を我が家の敷地内に匿っているとの疑いで武装した秘密警察 20 名程が我が家を急襲。何も知らない女房が立ちはだかりスタッフを守ろうとした武勇伝（？）も今だからこそ懐かしい話。（事情聴取の為、一日拘束されたスタッフは翌日釈放され無事帰宅。玄関先で女房と抱き合う様子が浮かんできます）

ところで、この年 2007 年の春先、ビルマ（ミャンマー）と北朝鮮が 24 年振りに国交回復したとの小さな新聞記事を見つけました。国交断絶の原因となった 1983 年 10 月、北朝鮮に依る韓国・全斗カン大統領一行を狙ったラングーン爆破テロ事件が我々駐在中に起こり多数の韓国人、ビルマ人が死傷。事件現場がビルマ独立の英雄として多くの国民から崇拜されていたスーチーさんの実父であるウンサン将軍廟だったこともあり、ビルマ人の怒りは相当なものでした。複数の北朝鮮実行犯が逮捕されるまでの約一か月の間は、逃亡中どこに潜んでいるか分からぬ犯人達との遭遇、又、朝鮮人との区別がつき難いことよりビルマ人から間違われての日本人への危害を心配するむきもあり、非常に緊張したと言うか、気持ち悪い不安な日々を過ごした記憶があります。

あの当時は北朝鮮との国交回復は想像すら出来ないと思っていましたが、この 24 年という歳月が両国を含む国際情勢の変化を絡めて国交回復までもってこられるのか、両国の思惑、背景等はよく分かりませんが、何か複雑な気持ちになりました。

当時のビルマは「ビルマ式社会主義」と称し外国資本の排除や外国人の入国制限などで事実

上の鎖国と思われる体制の中、ジャングルに囲まれた「緑の地獄」と表現する人もいた様に、自由に動き回れる状況ではありませんでした。外食できるレストラン、ショッピングを楽しむ場所もなく、生活用品もその殆どを主に隣国タイのバンコックに出掛けての大量の買い出しで調達していました。又、衛生面での不安も大きく、アメーバ性赤痢（我々家族も罹りました）、がくこうちゅう デング熱、狂犬病、顎口虫症、等々に感染された身近な日本人の方々もおり、我々家族も大使館の日本人ドクターやビルマ人開業医には頻繁にお世話になりました。

私自身は大阪プラント部より派遣されビルマ各地での精米所建設プロジェクト推進を主業務としており、ラングーンでの勤務が殆どでした。ただ、節目のポイントにはビルマ南部 8 か所に展開する建設現場に行くことがあり、イラワジ河デルタ地域へは小さな船で水路を探しながら現場にたどり着き、虫が飛び交う仮設宿舎に蚊帳をつり寝泊まりもしました。

各建設現場にはメーカーさんの日本人技術者に数週間単位で滞在してもらっていたり、彼らがラングーンに戻ると「ラングーンは大都会です。」と嬉しそうに話していたのを実感し、頭が下がる思いをしたことを覚えています。

この三泊四日の滞在中に昔のことが次々と蘇り、又、当時幾度となく訪れたシュエダゴン・パゴダ、ポジョーオンサン・マーケット、郊外に移設された日本人墓地、社宅、幼稚園、等々駆足で回り懐かしい皆さんとの再会を通しては、23 年の歳月を感じさせない雰囲気の中で過ごすことができました。

片や、新しいオフィスビル、高層アパート、

美味しいレストラン、カラオケバー等、そして何より当時は民族衣装のロンジー姿が殆どだった人々がスカート、スラックスのカラフルな装いも見られ時の流れを感じました。

変わっていく中にも変わらないものを感じられ、非常に有意義な旅を楽しむことができ、改めて兼子支店長はじめ支店スタッフの皆さんに感謝致しました。

## (追記)

上記の我々が訪れた 2007 年当時はラングーン市内の自宅に軟禁中だったスーチーさんは、2015 年の総選挙を経て新生ミャンマー政権の中枢として活躍中です。

カレン族などとの少数民族問題、経済問題など種々解決せねばならない問題のある中、開かれたミャンマー、最後のフロンティア…と日本をはじめ多くの外国資本が殺到しているとの報道をよく見かけます。これからも紆余曲折があるとは思いますが、本当の意味でビルマが発

展し国際舞台で堂々と存在感を發揮し、眞の意味で平和が訪れること、又、双日グループが win-win の関係で引っ張って行ってくれることを大いに期待しています。



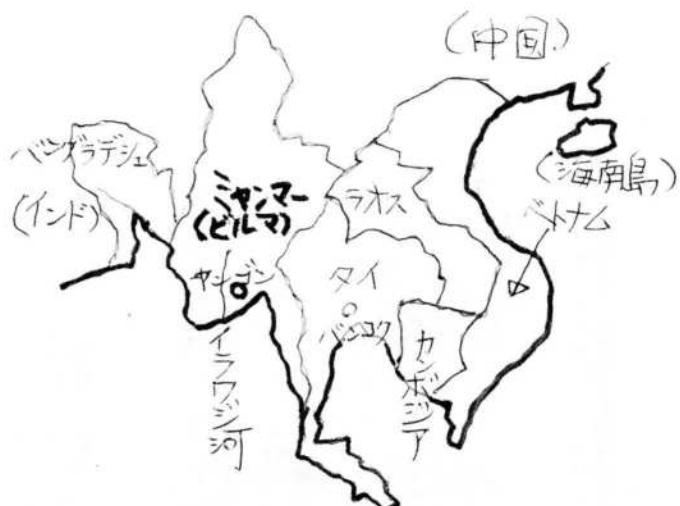
双日ヤンゴン支店 支店スタッフと  
兼子支店長（後列左から 2 人目）



チッチ先生と



シュエダゴン・パゴタにて  
ロンジー姿にて



## 新しい日本国歌の提唱

山邑 陽一

2020年日本にオリンピックが来る。古代ギリシャに始まったこの平和の祭典に、多くの日の丸が揚り国歌が何度も演奏されるのを聞いたいと、日本人ならだれでも思うだろう。

これまで何度もテレビで見てきたこの光景に会って、国旗日の丸に日本人として誇りを感じながらも、国歌君が代を聴いて、誇りに満ち明るい元気に満ちた他国の国歌に比べ、何となく気おくれを感じてきた人も多いのではなかろうか。

だいいち、旋律が暗い。元気が出ない。第二に歌詞が分かりにくくて、いつでも歌えるくらいに覚えている人が少ない。「さざれ石」伝説は日本中の至る所にあるが、正確に理解している人は少なくて、歌詞とは反対に、巨岩が長期に亘って徐々にさざれ石になり世界という大海に流れ入るまで、としたほうが自然の摺理に沿っていると思っている人も多い。

第三に、君が代の歌詞は日本人の作詞だが、作曲は明治政府の依頼で英国人がしたもので、いわば明治政府の輸入官製国歌なので、戦後の日本国憲法の民主主義のもとで国民が歌う国歌としては、違和感を感じている人も多いからだろう。

こんな歌が日本国憲法下でも国歌として生き残ってきた理由は、この歌が戦後の自虐史観や皇国史観や一億総懺悔説が渦巻く中で、それに替わる国歌を提唱することが、時の政権にとっ

てタブーとされてきたからであろう。だがそれは、今となればあまりにも取り越し苦労であり事なき主義であろう。東京五輪を前にした今、誰にでも愛され歌われる新しい日本国歌の制定が望まれる。

そこで私が提唱したいのは、日の丸を歌った明るく歌いやすく分りやすい童謡を国歌することである。

「白地に赤く日の丸染めて ああ美しい日本の旗は。」

これで終れば物足りないというのなら、  
「春にはさくら秋にはもみじ ああ美しい日本の山は。」(二番)

「お日さまのぼりお日さま沈む ああ美しい日本の海は。」(三番)を加えたらどうだろう。日本の国花とされる桜も歌われることになる。

小学校・中学校の一年生の最初の音楽の時間に、校歌を学ぶとともに国歌を復習することがよく行われる。もし国歌を上記のような明るく歌いやすく分かりやすい童謡に変えるなら、幼稚園・小学校・中学校の教育を通じて国歌が爆発的に普及するに違いない。



## 小論二題

山邑 陽一

### あたらしい憲法のはなし

好天の今年5月3日は楽しい一日だった。昼食を取ってから西宮北口へ出かけた。駅前の書店で復刻版『あたらしい憲法のはなし』を探し、大阪の弁護士さんの大阪弁訳があったのでこれを買った。昭和22年8月に出た中学1年用のこの教科書で昭和24年に私は初めて憲法を教わった。私立中学であったが校長自らこの教科書を教えてくれた。教科書に書いてないことまでも習った。「自由主義は各人に無限の価値を認めるが、民主主義は各人に各1の価値を認める。各人に無限の自由を認めるのではない。」などである。大鍋に武器をいっぱい投げ入れて破棄する挿絵もなつかしい。今読んでもワクワクする。

本を買ったあと、兵庫県立芸術文化劇場で4つの男声合唱団の歌を聴いた。大学時代グリークラブに居た友人からチケットを頂いたからである。社友会の丸尾さんも歌っておられた。人生の秋を想わせるブラームスばりの歌から始まり、さまざまな「うた」が繰り広げられて、人生の秋に入った歌い手たちの人生への深い想いと愛情に酔いしれた。最後に5つの合唱団の混成メンバーが合同演奏により、さだまさしの「閑白宣言」から3曲とアンコールが歌われた。

帰途につき場外に出ると、澄んだ青空から暖かい陽がさして緑が美しかった。帰りの車中からふるさとの六甲の山々を眺めながら、中学時

代から今までのさまざまな想いがよみがえった。小・中学校のころは戦後の食糧難で食べるものがなかったけれど、大学時代はもう十分によくなつて、勉学も山歩きも楽しかった。傘寿を迎えたいま、不安がまた心をよぎる。戦後マルキシズムの闘争史観を克服した今はまた、米国流の超資本主義の闘争史観が蔓延して、国民の不安は募るばかりである。国民に「殿御乱心」といわせる事態を阻止する力のある幕閣を生まない今の政治は、本当に民主主義なのであろうか。

### 私のカジノ反対論

カジノ法案審議の国会中に、般若心経を唱えたあと議場を回って法案を通し拍手を打って議場を出た議員がいた。カジノ法案に反対の私は歎異抄のもじりでこれに対抗しよう。『カジノ経済なほもて国民を害す。ましてカジノをや』と。

先日NHKテレビで出口治明さん（元日本生命）が『生産性』（伊賀泰代著）と『バブル』（永野健二著）を必読書として推薦された。昔の労働価値説ならぬ超現代の資本価値説？下では、カネがカネを産むカジノ経済がはびこり、生産よりも投機と投資の「生産性」？が高くなって再バブル・再々バブルへの期待が膨らみ、まともな生産活動に従事している人々でさえ、会社資金・役員報酬やなけなしの賃金までも注ぎこんで通貨や株式を売買する。まともな生産性はどんどん落ちる。まして本物のカジノができれば大変だというのが私のカジノ反対論だが、生産性とバブルの関連を考えれば、上記二著を推薦した出口氏に敬服する。

## 会員寄稿

### 双日谷口副社長の転勤歓送会

山邑 陽一

平成 29 年 3 月 28 日 18 時～20 時

双日株式会社関西地域統括副社長谷口真一氏送別会  
新国際ビル 2 階レストランミッテにて開催

林靖会長が冒頭の挨拶をされました。

「ニチメン大阪社友会の会長林 靖でございます。長老に免じてトップバッターの御挨拶をご指名いただき光栄でございます。此の度の谷口真一副社長様の送別壮行会にご案内をいただき感謝申し上げます。何をさておいてもと存じ参加させていただきました。これまでのご厚情に衷心より御礼を申し上げます。

実は、此の度の双日株式会社役員人事にて佐藤洋二社長様、並びに谷口真一副社長様のお代わりになるのを伺はずいぶん淋しくなるなあと思っておりました。しかし本日ここにお伺いし、このように 100 人からの若々しい双日関西を支えておられる中堅リーダーの方々にお目にかかり、加えて若い女子社員の皆さん達が一堂に会されている熱氣にあふれたご様子に接しまして、改めて谷口様のわずか 2 年間にもかかわらずそのご苦労とご奮闘ぶりがうかがわれ、如何に情熱を注がれたか、多くの社員の皆さんに慕われていらっしゃるかを拝見しらためて納得し感動いたしております。

さて、ニチメン大阪社友会もお蔭様で現在ますます順調に運営致しております、米寿を迎えた名誉会員の皆さんも年々数を伸ばし、

お元気にお過ごしでございます。谷口様にはご着任以来常に大変意を注いでいただき総会、新年互礼会には必ずご出席され多くの長老会員に親しく接していただきました。常々深く感謝致して参っておりました。

東京にお帰りになりますとまずは御疲れを癒され、今後ますますご活躍されますようご祈念申し上げ、そして、是非引き続き、大阪社友会にも御顔をお見せくださいますようお願い申し上げ御礼の御挨拶とさせていただきます。」

この会にわたくし山邑陽一も出席しました。出席者の中に東京から来た堀 新太郎さんがおられ（双日鉱産部）ヨハネスブルグへ赴任する旨の挨拶をされたので、翌日職場あてに拙著『国際事業投資の諸局面』（2005 年）をお贈りしたところ下記のお手紙を頂きました。

現地でのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

「ニチメン大阪社友会 山邑陽一様

この度はご丁寧に御手紙と山邑様の著作を頂戴しまして、誠にありがとうございます。私は 2011 年入社で商社勤務 6 年間であり、特に海外赴任という右も左も分からぬ状態からのスタートとなりますので、頂戴した書籍を参考にさせて頂けて大変感謝しております。

健康に留意しながら早く現地に馴れ、現地の商売関連、生活関連の記事を貴会へ寄稿させて頂きたいと思います。気候の変わり目ですので、山邑様も是非ご自愛下さい。

堀 新太郎

## 社友会からのお知らせ

### ○平成 29 年度新年互礼会 【平成 29 年 1 月 12 日木曜日 開催】

会員出席者 130 名、東京会員 1 名、双日株式会社より来賓者 9 名 計 140 名  
出席者一覧の報告は別項にて記載。

### ○会員動静

☆平成 28 年度会員数（平成 29 年 3 月 15 日現在） 552 名  
(内、名誉会員 74 名 内、新規入会者 6 名 内、ご逝去者 14 名)

☆新規入会者 [会報 19 号に記載] その後入会者なし

#### ☆ご逝去者

(134) 奥村 清	(142) 小見 繁夫	(268) 鹿田 良信	(278) 清水 忠
(361) 田中 太郎	(429) 中嶋 清和	(78) 上田 真平	(74) 岩澤 清一
(32) 池田 誉	(209) 國武 貞俊		

### ○訃報

会報 18 号発行（平成 28 年 5 月 31 日）後、未記載及び以降のご逝去が判明した方々を下記致します。

（平成 29 年 3 月 15 日現在）

#### ニチメン大阪社友会

氏名	出身部門	逝去年月日	享年
田中 太郎さん	人事	平成 27 年 8 月 3 日	98 歳
鹿田 良信さん	繊維	平成 28 年 11 月 6 日	87 歳
清水 忠さん	紙パ	平成 28 年 11 月 19 日	95 歳
*越野 量路さん	機械	平成 28 年 11 月 10 日	83 歳
*古畑 智さん	食糧	平成 28 年 1 月 4 日	85 歳
奥村 清さん	機械	平成 29 年 1 月 14 日	89 歳
小見 繁夫さん	繊維	平成 29 年 1 月 14 日	87 歳
中嶋 清和さん	計数	平成 29 年 1 月 17 日	74 歳
*伊藤 重臣さん	調査	平成 29 年 1 月 26 日	94 歳
國武 貞俊さん	人事	平成 29 年 1 月 27 日	91 歳
上田 真平さん	繊維	平成 29 年 2 月 6 日	81 歳
岩澤 清一さん	人事	平成 29 年 2 月 11 日	85 歳
池田 誉さん	繊維	平成 29 年 2 月 18 日	88 歳

※非会員

## ニチメン東京社友会

氏名	出身部門	逝去年月日	享年
鈴木 悠さん	鉄貿	平成 28 年 8 月 27 日	85 歳
高野 千秋さん	化工	平成 28 年 9 月 10 日	80 歳
藤田 一郎さん	不明	平成 28 年 10 月 7 日	99 歳
利根川慎治さん	非鉄	平成 28 年 10 月 18 日	78 歳
今田 時男さん	機械	平成 28 年 10 月 10 日	74 歳
*長 泰一さん	繊維	平成 28 年 10 月 29 日	65 歳
國領 和彦さん	専務	平成 28 年 11 月 16 日	92 歳
山口富美子さん	不明	平成 28 年 11 月 20 日	96 歳
山口 富治さん	機械	平成 28 年 12 月 16 日	92 歳
矢口 三郎さん	不明	平成 28 年 12 月 26 日	87 歳
杉浦 好治さん	業務	平成 29 年 2 月 3 日	84 歳
*塩見 俊章さん	化工	平成 29 年 2 月 7 日	67 歳
埴生 栄勇さん	木材	平成 29 年 2 月 16 日	83 歳

※非会員

## ○名誉会員（平成 29 年 3 月 30 日）

東 忠	有山 和雄	伊藤 豊	井上 精一	上田 浩
岩田録士郎	大角 穎一	大谷 昭三	大谷房太郎	大野 嘉
大平 郁江	岡崎 良治	岡村 俊三	小崎 長矩	小野 恒司
河西 郁夫	金久 正臣	金岡 徹	河合 康雄	加藤 義民
金森 嶽男	神戸 譲	桑原 艶子	小塚 孝	小林 充幸
佐草 茂男	佐野 啓二	沢田 太郎	佐野 信一	杉山平太郎
杉野 菊次	備江 眞彰	高尾 良一	高木 市郎	高橋 正
竹田 善英	田中 三郎	田中 良三	高間 敬三	辻井 準一
津田 心美	中澤 八郎	永田 耕三	中西 康就	中村 鼎
仲谷 泰郎	西野 武	温品 廣助	橋本 潔	橋本八重子
初田 穎夫	早瀬 三郎	平野 賢次	福田 一郎	福田 和
福原 松一	道上 正男	丸橋 伸好	三村 俊雄	三宅 和雄
牟禮 忠司	森川 崇	森山 泰史	山口 俊男	山本 敏夫
山本 峻	山本 道人	安田 祐次	安井栄一郎	横田 積治
與沢英五郎	吉岡眞治郎	吉田 俊治	若住 昇	計 74 名

## ○平成 29 年度 新年互礼会出席会員一覧

青島 和夫	神田 久大	高橋 正	中山 温亘	丸橋 伸好	池内 孝文
菊澤 淳	高橋 康之	新川日出夫	三浦 秀信	石川 秀雄	岸田 壽子
宅 哲男	錦織 昌一	美川 広則	石黒佐知子	北村 稔敏	武内 昭信
野坂 修平	溝口 正子	稻治 寿	木村 武志	竹田 善英	野田 稔
三宅 要	井上 精一	木村 嘉夫	立花三重子	野村 隆治	向井 健市
井上 行芳	木村 幸史	龍田いつよ	萩原捷一郎	村松 正司	井上 裕
内蔵田 卓	龍田 誠一	橋本 典子	森 正子	植西 武司	小林 英一
龍田 政彦	橋本 英雄	八木 郁充	碓井 恭裕	米田 信一	田中 二彦
林 喜久雄	山岸専太郎	内田 博夫	近藤 越夫	田中 長典	林 敏男
山口 秀夫	宇都宮 晉	酒井 邦子	田中 秀明	林 靖	山地 正房
大西 隆夫	佐藤 郁夫	谷口 雅美	早瀬 三郎	山野ひろみ	太平 郁江
佐藤 史郎	谷 祥四郎	日野 起男	山村 保	岡崎 謙二	澤井 昂三
谷本 義夫	平田 泰祐	山邑 陽一	小笠原 功	沢田 太郎	田上 正靖
平川 真淳	山本 正巳	岡島 岩男	澤山 操	田淵 弘通	廣岡松治郎
横田 積治	岡田佳代子	塙見宗太郎	玉置 和夫	福井陽一郎	與沢英五郎
岡 図南雄	四方 正汎	玉田 恭子	福田 和	吉岡眞治郎	岡本 幸雄
柴田 隆	辻川 洋	藤崎 恭典	吉本 邦晴	尾子 明	清水 浩
辻山 隆博	藤田 康弘	米村 涼子	小崎 長矩	白水汎	津田 和男
堀 啓子	若住 昇	小野 悅司	神保 慶三	津田 忠佑	松田 悅
金谷 安勝	関岡 大吉	土井 健司	松田 武一	金久 正臣	島 悠紀夫
殿護 隆司	松村登美子	川田 英之	高嶋 忠夫	富場 勝利	松村 信男
川村 耕造	高橋 悅夫	中村 吉夫	黛 秀也		

(東京社友会々長) 石原 啓資

以上 146 名

双日(株)来賓者 9 名

計 155 名

平成 29 年 1 月 12 日 新年互礼会に於いて白寿・米寿のお祝い金が贈呈されました。

お祝を受けられた方。

白寿 (1名) 加藤 義民

米寿 (15名)	池田 誉	岡村 俊三	小野 悅司	金久 正臣	金岡 徹
	神戸 譲	高尾 良一	竹田 善英	田中 良三	仲谷 泰郎
	温品 廣助	丸橋 伸好	牟禮 忠司	安井栄一郎	山本 道人

## ○平成 28 年度役員

会長： 林 靖  
副会長： 林 喜久雄 関岡 大吉（兼任） 岡崎 謙二 山邑 陽一  
世話人代表： 関岡 大吉（兼任）  
世話人： 市磯 正夫 内田 博夫 金谷 安勝 白川 清朗 殿護 隆司  
富田 邦子 中嶋 清和 橋本 典子 森 正子 八木 郁充  
山地 正房 山村 保  
監事： 木村 幸史

\*上記役員任期は平成 29 年 6 月 30 日（敬称略）

## 平成 29 年度会員登録のお願い

平成 29 年度（2017 年 7 月 1 日—2018 年 6 月 30 日）の会員登録、すなわち、年会費 ¥3,000 の振込みをお願い致します。

（名誉会員の方々は、年会費免除）

### （振込み先金融口座）

三菱東京 F U J 銀行 中之島支店  
口座名： ニチメン大阪社友会 口座番号 普通預金口座 4695135  
又は 郵貯銀行  
口座名： ニチメン大阪社友会 口座番号 総合口座 14150-32185811

\*いずれの場合も会員ご本人の氏名で振込願います。

\*振込み手数料は振込人のご負担にてお願いします。窓口での振込みよりも A T M ご利用の方が僅か安くなります。

\*退会される方は必ずご連絡をお願いします。

## 寄稿のお願い

皆様のご協力により、会報第 20 号を予定通りお届けすることができました。今後も、皆様方の貴重な体験談、旅行記、趣味同好会や個別 O B 会だより、海外生活の思い出、珍しいコレクションの紹介、自慢話・苦労話など、身近な話題をご提供いただきたく、下記要領にてご寄稿をお願いします。

- 1) 字数 ; 原則自由ですが、A 4 版 1 ~ 2 ページに収まるよう、400 字詰め原稿用紙 3 ~ 4 枚程度をめどにお願いします。
  - 2) 体裁 ; 手書きかワープロ原稿でも結構ですが、できればパソコン使用、メール送信願えれば助かります。
  - 3) 送信方法 ; 郵送、FAX 送信、または E メール添付送信
  - 4) 送付先 ; 郵送・FAX ;  
ニチメン大阪社友会事務局  
〒 540 - 8689  
大阪市中央区久太郎町 1 丁目 6 番 29 号 FORECAST 堺筋本町 6 階  
FAX : (06) 6267-4024  
MAIL : nm-shayukai.os@sojitz.com
- ・役員（前ページおよび会員名簿参照）宛にお届けいただいても結構です。

## 編集後記

今年は春の訪れが遅く、3月末に今号原稿の締め切りが終わっても桜が開かず、そのため 4 月に入ってから届けられる原稿もあって、異例の春となりました。

双日株式会社は日本綿花株式会社が 1892 年に設立されてから今年で通算 125 年、2004 年に双日株式会社として改組されてからでも 13 年の歴史をもち、その社友の数は日商株式会社・岩井産業株式会社・日商岩井株式会社・子会社の社友も含めると膨大な数になります。

将来はそうした多くの人たちが紙上で一堂に会せるような会報にしたいと願いながら、毎号のよりよい編集に努力しています。

山邑 陽一

訂 正

第 19 号 40 ページ訃報欄・ニチメン東京社友会のうち、  
丸山修作さんの出身部門・専務を副社長に訂正します。

**ニチメン大阪社友会 会報 No.20**

発 行 日：平成 29 年 5 月 31 日

発 行 者：ニチメン大阪社友会

〒 540-8689 大阪市中央区久太郎町 1 丁目 6 番 29 号  
FORECAST 堺筋本町 6 階

発 行 人：林 靖

編集責任者：山邑 陽一

編集スタッフ：富田 邦子 橋本 典子（五十音順）

印 刷 所：(株) 克宗印刷所

〒 651-0097 神戸市中央区布引町 3 丁目 2-1

